

白浜町国民健康保険
第2期データヘルス計画

平成30年3月
白浜町

第1章 計画策定について	
1. 背景	3
2. 計画期間	3
3. 基本方針	4
4. 計画の位置づけ	4
5. 実施体制	5
第2章 現状と課題把握	
1. 保険者の特性把握	6
(1) 基本情報	6
(2) 医療費等の状況	7
(3) 特定健診受診状況及び特定保健指導実施状況	8
(4) 介護保険の状況	17
(5) がん検診の状況	19
(6) 新生物の状況	20
(7) 死因の状況	22
2. 医療情報分析結果	23
(1) 基礎統計	23
(2) 高額レセプトの件数及び医療費	24
(3) 疾病別医療費	25
(4) 特定健診及びレセプトデータによる指導対象者群分析	31
(5) 特定健診にかかる質問票の状況	32
(6) 特定保健指導に係る分析	33
(7) 人工透析に係る分析	35
(8) ジェネリック医薬品普及率に係る分析	36
第3章 既存の保健事業	
1. 第1期データヘルス計画の考察	38
(1) 特定健診の未受診者対策	38
(2) 特定保健指導の利用勧奨	38
(3) 生活習慣病予防事業	38
2. 保健事業の振り返り	39
第4章 健康課題と目的・目標の設定	
1. 現状分析と健康課題	43
2. 目的と目標の設定	45
第5章 保健事業実施計画	
1. 第2期データヘルス計画<平成30(2018)～平成35(2023)年度>	46
2. 具体的な保健事業	46
(1) 特定健診未受診者対策	46
(2) 糖尿病腎症重症化予防事業	46
(3) 特定保健指導未利用者対策	47
(4) 健康づくり支援	47
(5) 大腸がん検診未受診者対策	47
3. 保健事業の評価	48

第6章 その他		
1. データヘルス計画の見直し		49
(1) 評価		49
(2) 評価時期		49
2. 計画の公表・周知		49
3. 個人情報の取り扱い		49
4. 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項		49
【参考資料】 中分類による疾病別医療費統計（全項目）		50
巻末資料		
1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方		
2. 用語解説集		
3. 疾病分類表（2013年版）		

第1章 計画策定について

1. 背景

「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)においては、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市区町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」としています。データヘルス計画には健康・医療情報(健康診査の結果やレセプト等から得られる情報)を活用し、健康状態や健康課題を客観的な指標を用いて示すこととあります。また、これら分析結果を踏まえ、直ちに取り組みべき健康課題、中長期的に取り組むべき健康課題を明確にし、目標値の設定を含めた事業内容の企画を行うこととしています。実施計画に基づく事業の実施に当たっては、費用対効果を考慮することや、レセプトを活用し、生活習慣の改善により予防効果が大きく期待できる者を明確にし、優先順位をつけて行うこととあります。

「日本再興戦略2016」(平成28年6月2日閣議決定)においては、「データヘルス計画を通じた企業や保険者等による健康・予防に向けた取組を強化する。」としています。こうした背景を踏まえ、白浜町においては第1期データヘルス計画を策定し保健事業を実施してきました。第1期データヘルス計画を評価し、現況と課題を踏まえた上で被保険者の健康増進を図るため、平成30年度からの第2期データヘルス計画を策定します。

レセプトを用いた現状分析は、医療費分解技術、傷病管理システム、レセプト分析システムおよび分析方法を用いて行うものとします。

※医療費分解技術(特許第4312757号)

レセプトに記載されたすべての傷病名と診断行為(医薬品、検査、手術、処置、指導料等)を正しく結び付け、傷病名毎の医療費を算出する。

※傷病管理システム(特許第5203481号)

レセプトに記載されている傷病識別情報、医薬品識別情報及び診療行為識別情報に基づき、傷病の重症度を判定する。

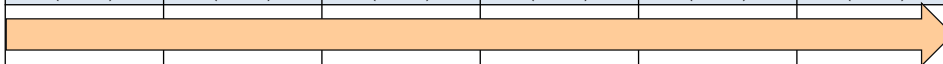
※レセプト分析システムおよび分析方法(特許第5992234号)

中長期にわたるレセプトから特定の患者についてアクティブな傷病名とノンアクティブな傷病名を識別する。

2. 計画期間

データヘルス計画の計画期間は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」第4の5において、「特定健康診査等実施計画及び健康増進計画との整合性を踏まえ、複数年とすること」とされていることから、第3期特定健康診査等実施計画期間である、平成30(2018)年度から平成35(2023)年度の6年間とします。

■ 計画期間

平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)
					

3. 基本方針

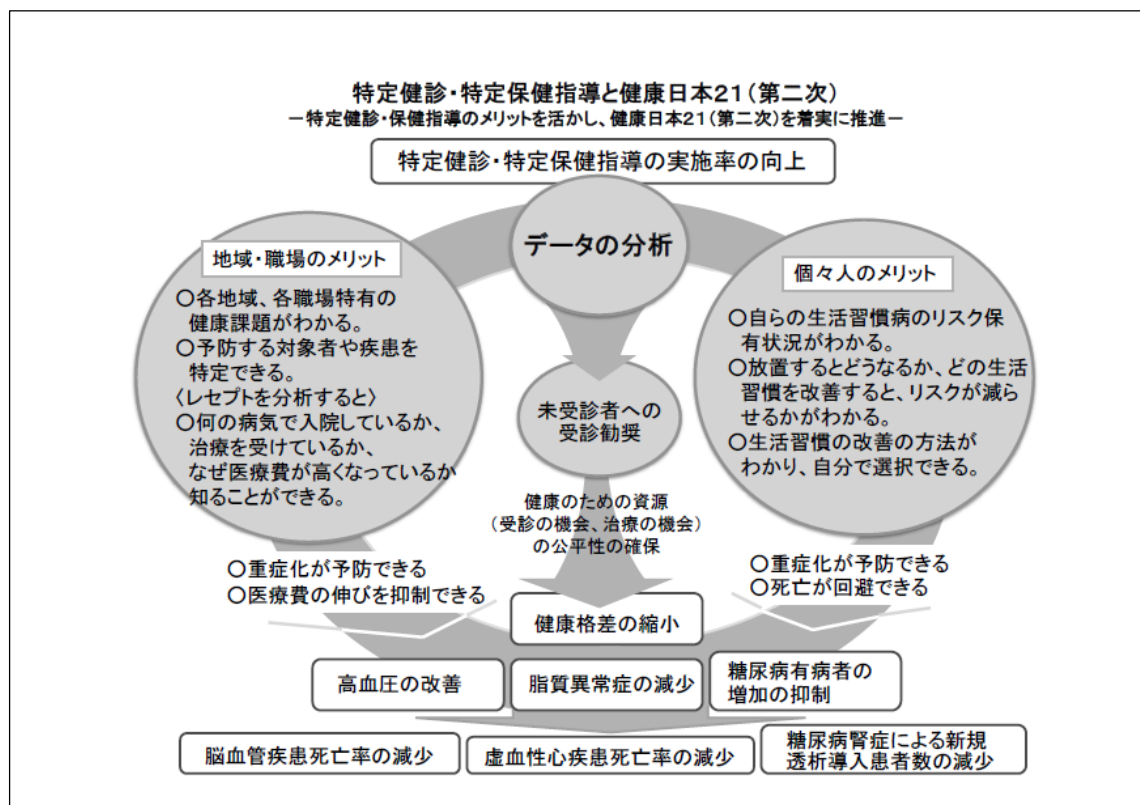
データヘルス計画では、短期的に取り組むべき対策と、中長期的に取り組むべき対策について、それぞれの段階にあった事業を行うことを計画します。

目標とする成果を達成するために、以下の基本方針でデータヘルス計画を策定します。

1. 潜在する課題を確認するため、疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生元となる疾病の把握を行い課題を明確にします。
2. 明確となった課題より、「短期的な対策」・「中長期的な対策」を選択します。費用対効果の見込める集団を特定し、PDCAサイクルを意識した継続的な事業を実施します。
3. データヘルス計画には、実施事業に対する明確な目標を設定し、記載します。またこの目標を達成することのできる効果的な実施方法を検討し、明示します。目標に対する客観的な効果測定が必要であることから、事業実施後の効果測定方法についても記載することとします。

4. 計画の位置づけ

「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21(第2次))」に示された基本方針を踏まえるとともに、「第3次和歌山県健康増進計画」及び「第3期特定健康診査等実施計画」、それぞれの計画と整合性を図ります。



5. 実施体制

データヘルス計画の遂行に当たっては、住民保健課が主体となり、関係機関の協力を得て、保健事業の実施に当たります。

なお、この計画の策定・評価にあたっては、和歌山県国民健康保険団体連合会に設置されている「保健事業支援・評価委員会」の支援を受けています。

■ データ分析期間

- ・ 国保データベース (KDB) システムデータ
平成26年度～平成28年度(3年分)

- ・ 入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト
単年分析
平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)
年度分析
平成26年度…平成26年4月～平成27年3月診療分(12カ月分)
平成27年度…平成27年4月～平成28年3月診療分(12カ月分)
平成28年度…平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)

- ・ 健康診査データ
単年分析
平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)
年度分析
平成26年度…平成26年4月～平成27年3月健診分(12カ月分)
平成27年度…平成27年4月～平成28年3月健診分(12カ月分)
平成28年度…平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)

第2章 現状と課題把握

1. 保険者の特性把握

(1) 基本情報

白浜町の平成29年1月1日現在の人口は22,018人です。高齢化率(65歳以上)は36.2%であり、周辺市町と比較して高い傾向にあります。また、平成29年10月1日現在の国民健康保険被保険者数は6,773人で、町の人口に占める国民健康保険加入率は30.9%です。

人口構成概要(平成29年1月1日現在)

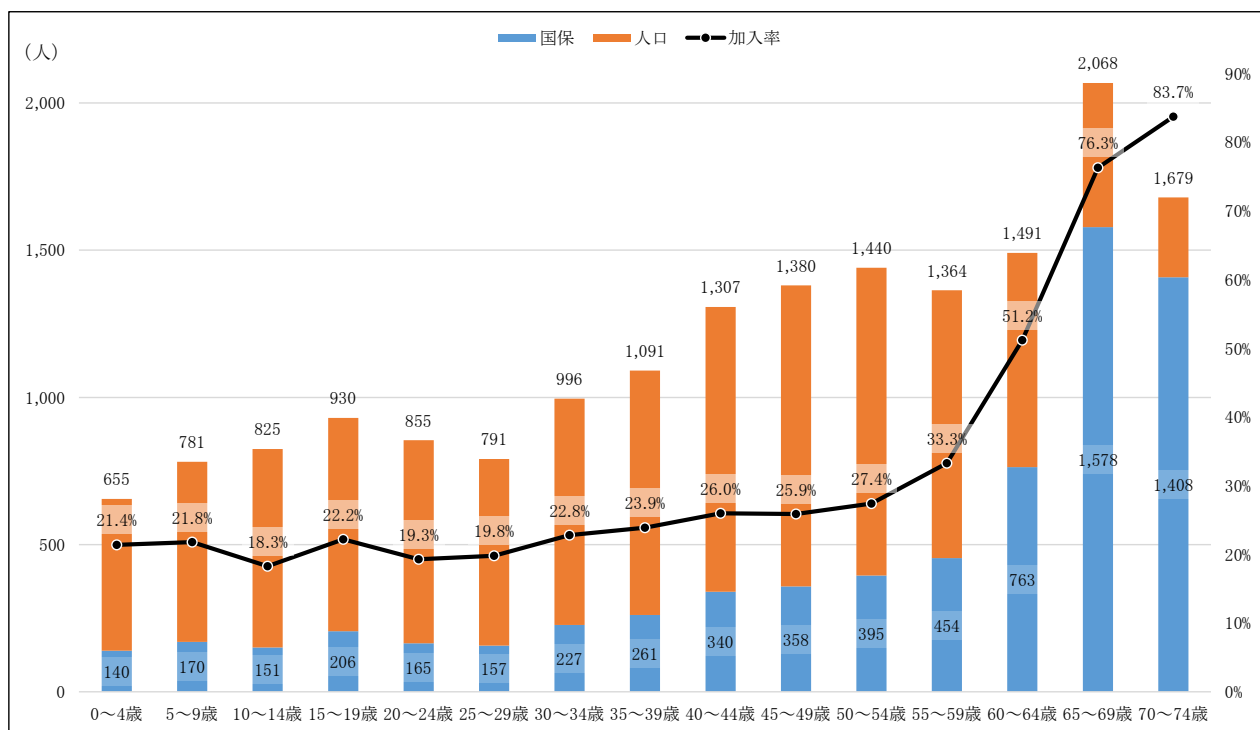
	人口	世帯数	高齢者率	出生数	死亡者数
白浜町	22,018人	11,066世帯	36.2%	114人	353人
県	984,689人	440,150世帯	30.9%	6,704人	12,683人
国	127,907,086人	57,477,037世帯	26.8%	997,781人	1,316,305人

周辺市町の状況(平成29年1月1日現在)

	人口	世帯数	高齢者率	出生数	死亡者数
白浜町	22,018人	11,066世帯	36.2%	114人	353人
田辺市	76,509人	35,527世帯	31.2%	505人	977人
上富田町	15,561人	6,987世帯	25.2%	147人	167人
すさみ町	4,249人	2,232世帯	45.9%	11人	88人
みなべ町	13,280人	4,838世帯	30.1%	94人	180人

出典:住民基本台帳人口要覧Ⅰ(平成29年度版)

被保険者の状況(平成29年10月1日現在)



出典:指定区別年齢別男女別人口調 年齢別男女別被保険者数調

(2) 医療費等の状況

平成28年度外来一人当たり医療費は13,960円で、平成24年度から平成27年度まで増加していましたが、平成28年度に減少しています。

平成28年度千人当たり外来患者数は624.9人で医療費と同じ傾向を示しています。

医療基礎情報(平成28年度)

医療項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
千人当たり					
病院数	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3
診療所数	2.1	2.1	2.2	2.3	2.6
病床数	56.9	57.7	59.8	63.1	65.5
医師数	4.7	4.8	5.0	5.2	6.0
外来患者数	603.2	610.1	626.7	632.3	624.9
入院患者数	17.0	18.1	18.1	17.2	18.0
受診率	620.2	628.2	644.8	649.5	643.0
一件当たり医療費(円)	33,080	34,750	34,780	37,090	36,990
一般(円)	32,900	34,560	35,010	36,380	37,080
退職(円)	35,160	37,300	30,420	53,310	33,970
後期(円)	0	0	0	0	0
外来					
外来費用の割合	56.8%	56.1%	58.2%	61.6%	58.7%
外来受診率	603.2	610.1	626.7	632.3	624.9
一件当たり医療費(円)	19,320	20,060	20,840	23,490	22,330
一人当たり医療費(円)	11,650	12,240	13,060	14,850	13,960
一日当たり医療費(円)	12,720	13,270	13,760	15,840	15,430
一件当たり受診回数	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4
入院					
入院費用の割合	43.2%	43.9%	41.8%	38.4%	41.3%
入院率	17.0	18.1	18.1	17.2	18.0
一件当たり医療費(円)	522,070	529,810	517,310	537,380	544,780
一人当たり医療費(円)	8,860	9,590	9,360	9,240	9,820
一日当たり医療費(円)	31,930	32,370	32,830	31,910	31,810
一件当たり在院日数	16.4	16.4	15.8	16.8	17.1

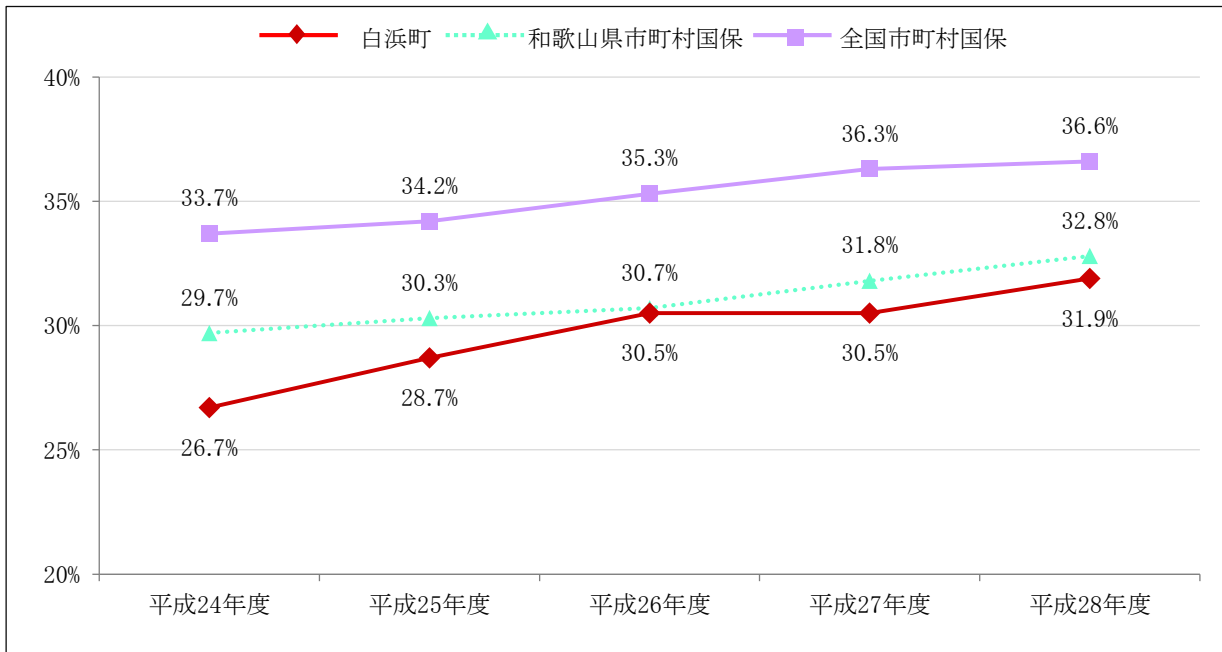
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(3) 特定健診受診状況及び特定保健指導実施状況

① 特定健診の受診状況

自己負担金の無料化、検査項目（血液検査項目、心電図検査等）の追加、受診可能医療機関の拡大、未受診者に対する受診勧奨の結果、特定健診受診率は平成28年度31.9%で平成24年度より毎年増加しています。しかし、県や国を下回っている状況です。

特定健診受診率の推移



出典：法定報告（平成28年度は速報値）

男女別特定健診受診対象者数、受診者数、受診率の推移

区分		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
男性	対象者数(人)	2,650	2,635	2,578	2,487	2,392
	受診者数(人)	632	659	680	662	665
	受診率	23.8%	25.0%	26.4%	26.6%	27.8%
女性	対象者数(人)	2,946	2,920	2,849	2,742	2,567
	受診者数(人)	864	933	973	933	915
	受診率	29.3%	32.0%	34.2%	34.0%	35.6%

出典：法定報告（平成28年度は速報値）

②男女別年代別の特定健診の受診状況

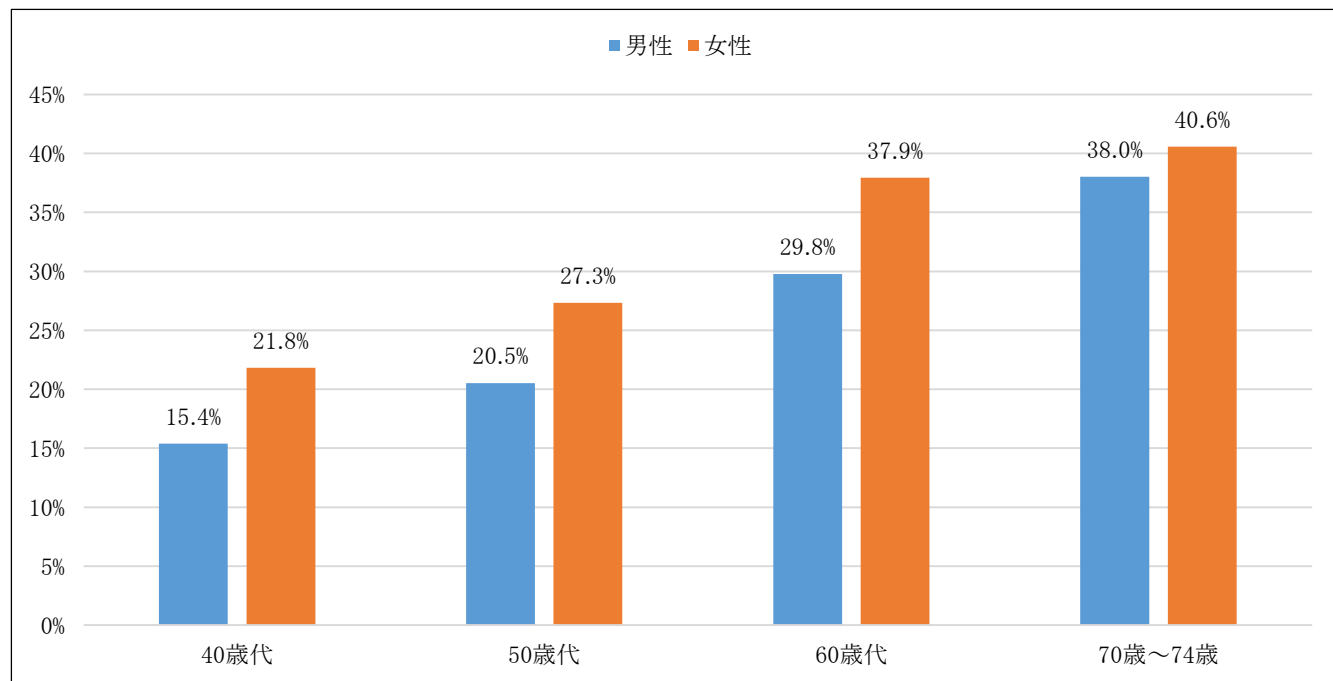
平成28年度の特定健診受診率を男女別にみると男性が27.8%、女性が35.6%であり、全年代で男性の方が低くなっています。年代別では40歳代が男性15.4%、女性21.8%と受診率が低くなっています。男女ともに年代の若い層ほど受診率が低い傾向にあり、40歳代の受診率は、70歳代の半分以下になっています。

男女別年代別特定健診対象者数、受診者数、受診率(平成28年度)

		40歳代	50歳代	60歳代	70～74歳	合計
男性	対象者数(人) (A)	377	424	1,028	563	2,392
	受診者数(人) (B)	58	87	306	214	665
	受診率 (B/A)	15.4%	20.5%	29.8%	38.0%	27.8%
女性	対象者数(人) (A)	252	355	1,218	742	2,567
	受診者数(人) (B)	55	97	462	301	915
	受診率 (B/A)	21.8%	27.3%	37.9%	40.6%	35.6%

出典:法定報告(速報値)

男女別年代別特定健診受診率(平成28年度)



出典:法定報告(速報値)

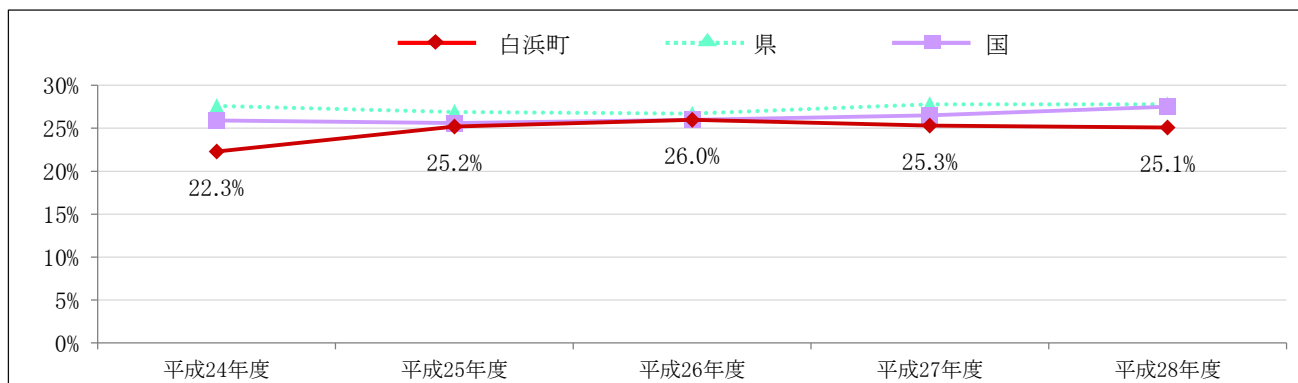
③メタボリックシンドローム該当者の状況

平成28年度の特健診の結果、メタボリックシンドローム（以下、「メタボ」という。）該当者の割合をみると男性は25.1%、女性は6.9%で、全体では14.6%となっています。

男性は平成24年度から平成26年度まで増加していましたが、平成27年度以降は減少しています。女性は平成24年度から平成28年度にかけてほぼ同様に推移しています。男女を比較すると、男性の割合の方が女性の割合を上回っています。

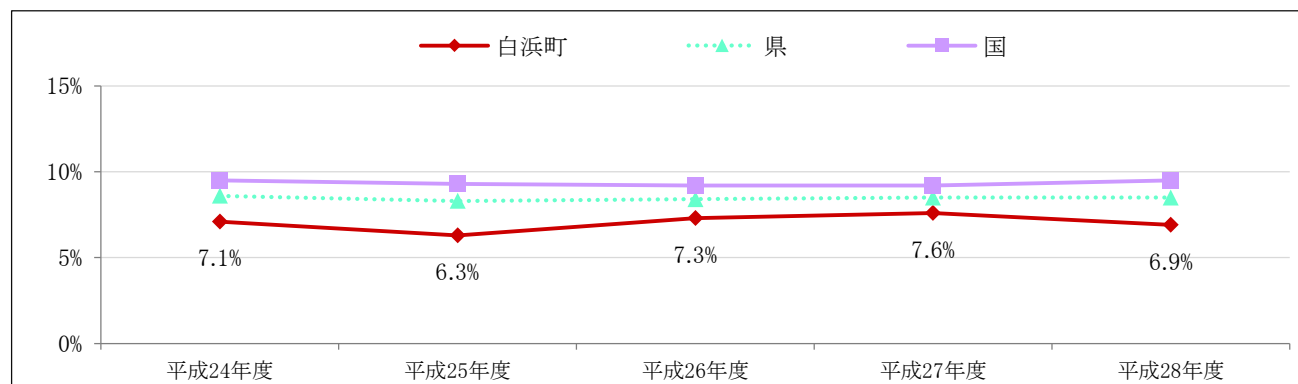
メタボ該当者の割合

<男性>



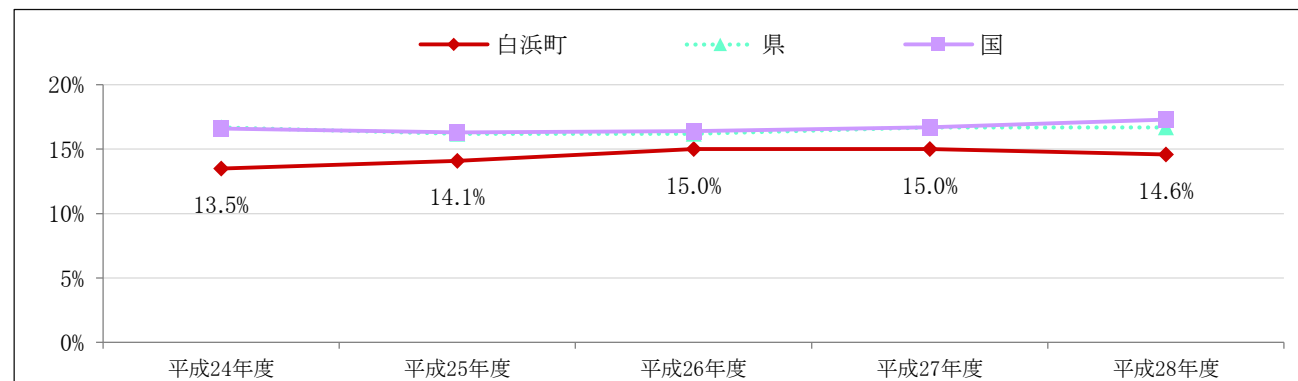
出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

<女性>



出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

<全体>



出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

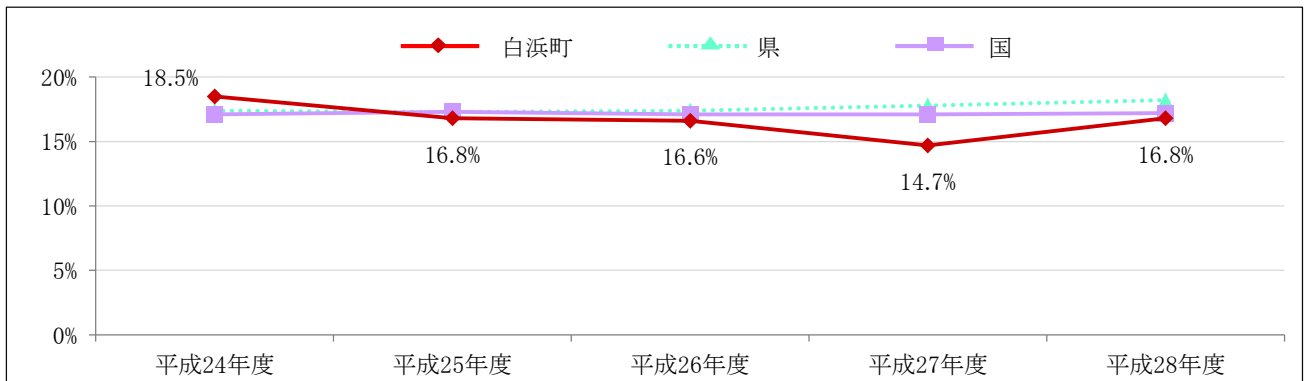
④メタボ予備群の状況

平成28年度の特定健診の結果、メタボ予備群の割合をみると男性は16.8%、女性は5.3%で、全体では10.1%となっています。

男性の割合は平成24年度から平成27年度まで減少していましたが、平成28年度に増加しています。女性の割合は平成24年度から平成28年度にかけて緩やかに増加しています。男女を比較すると、男性の割合が女性の割合を上回っています。

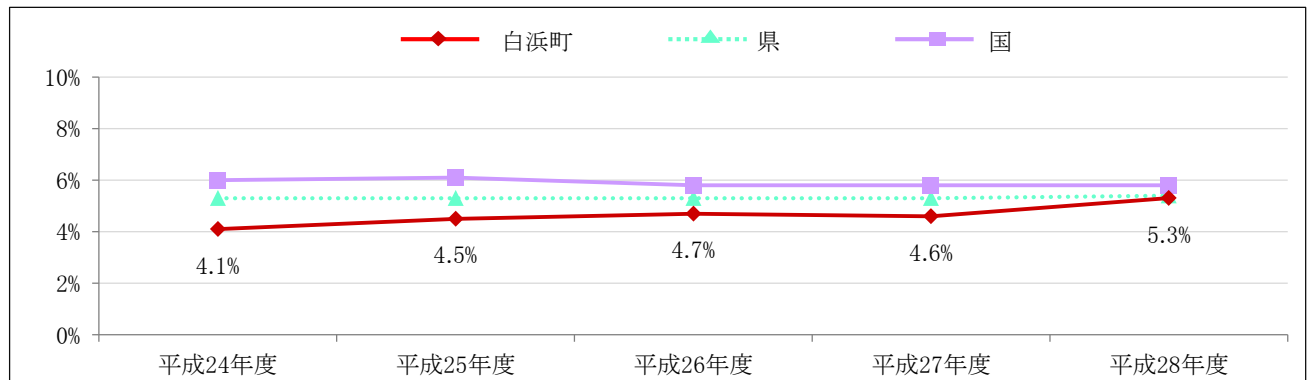
メタボ予備群の割合

<男性>



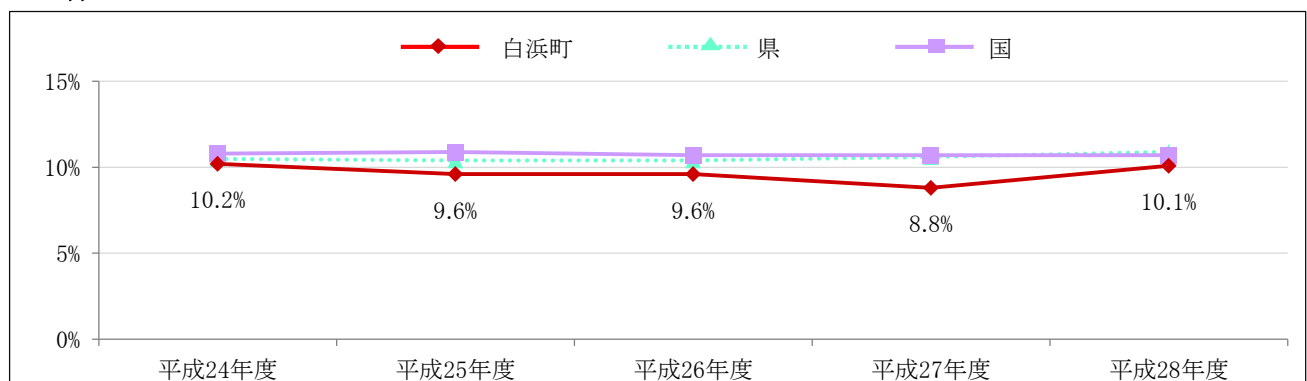
出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

<女性>



出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

<全体>

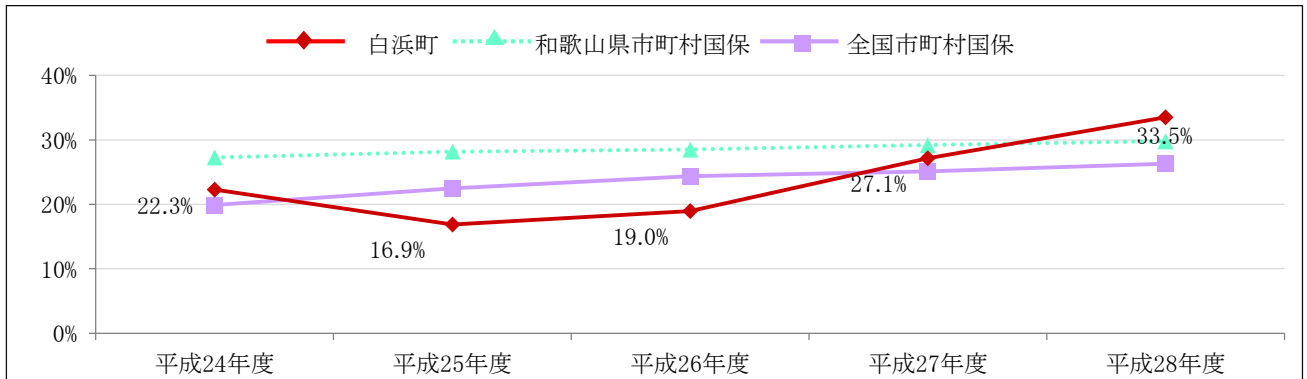


出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

⑤特定保健指導の状況

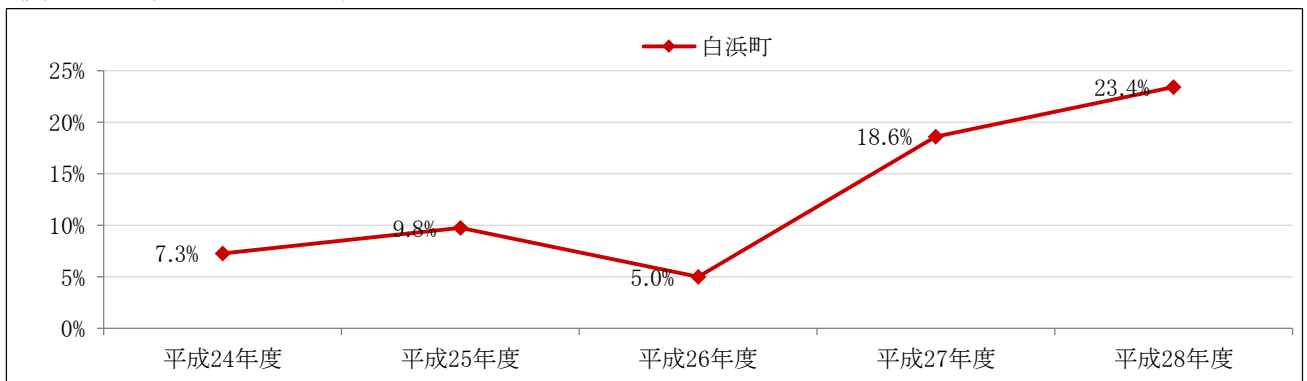
平成28年度の特定保健指導実施率は33.5%で平成25年度に減少しましたが、以降は増加しています。積極的支援実施率は、平成26年度5.0%まで減少していましたが、以降は増加しています。動機付け支援実施率は平成25年度に減少しましたが、以降は増加しています。

特定保健指導実施率の推移



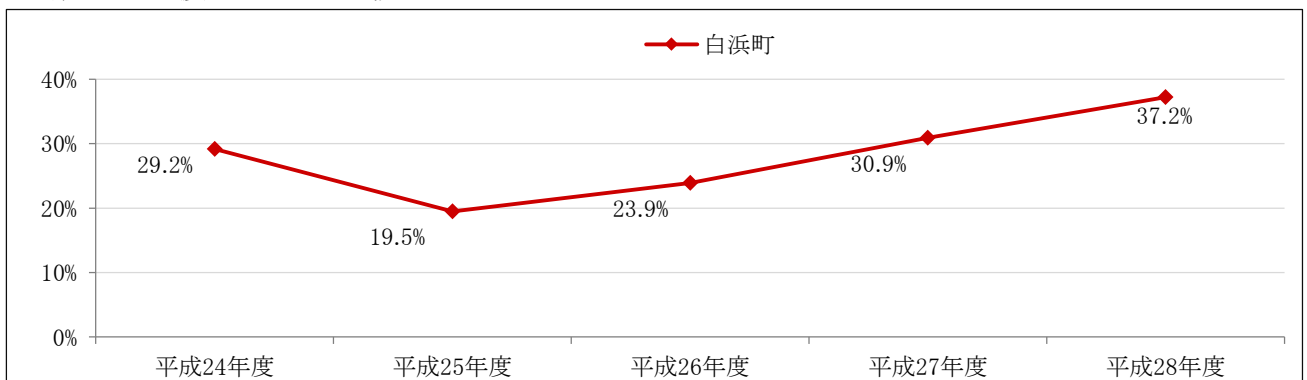
出典:法定報告(平成28年度は速報値)

積極的支援実施率の推移



出典:法定報告(平成28年度は速報値)

動機付け支援実施率の推移

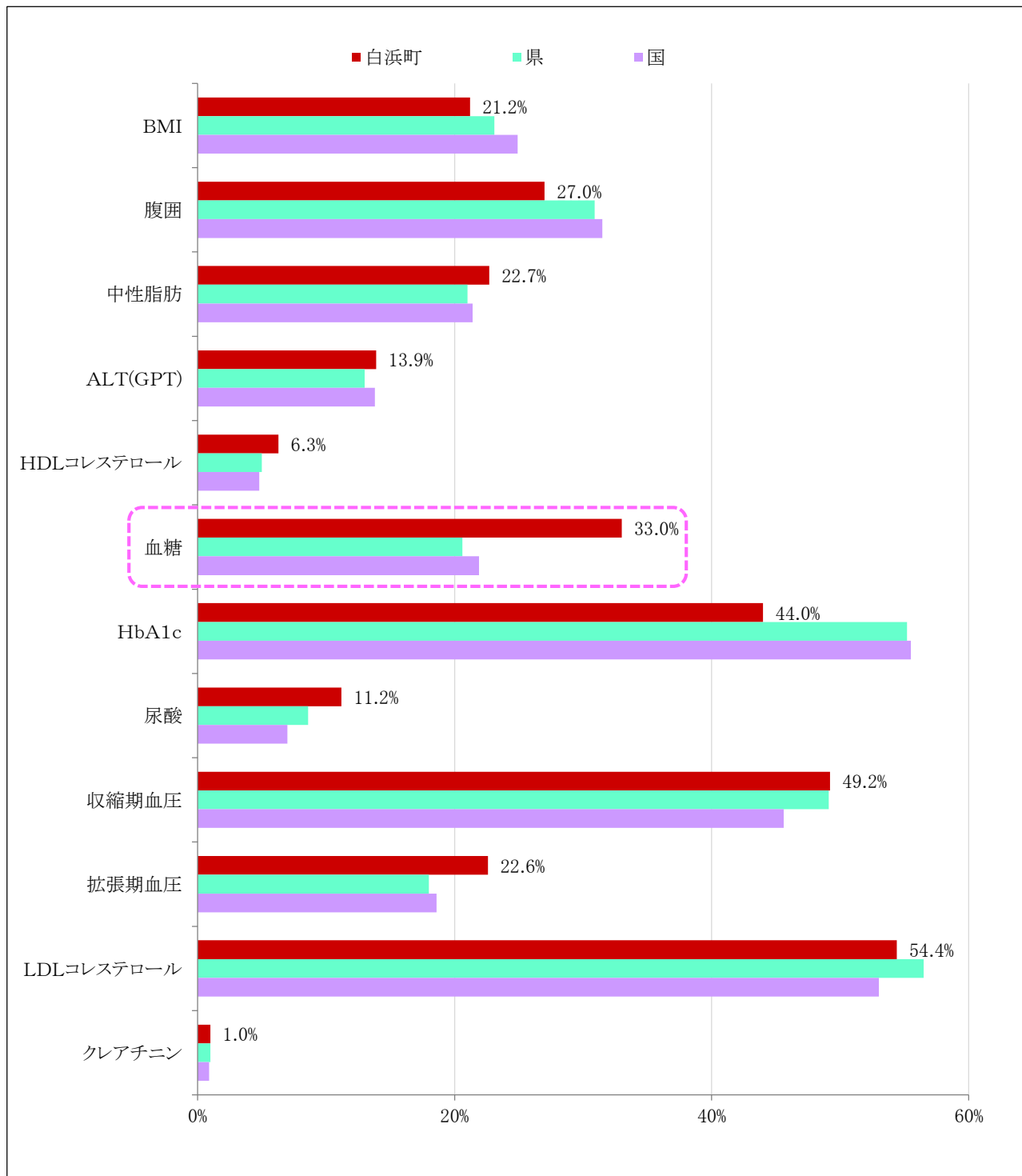


出典:法定報告(平成28年度は速報値)

⑥ 有所見者の状況

平成28年度の健診有所見者割合は「LDLコレステロール」54.4%、「収縮期血圧」49.2%、「HbA1c」44.0%、「血糖」33.0%の順に高くなっています。特に、「血糖」の有所見者の割合は、県や国と比較しても上回っている状況です。

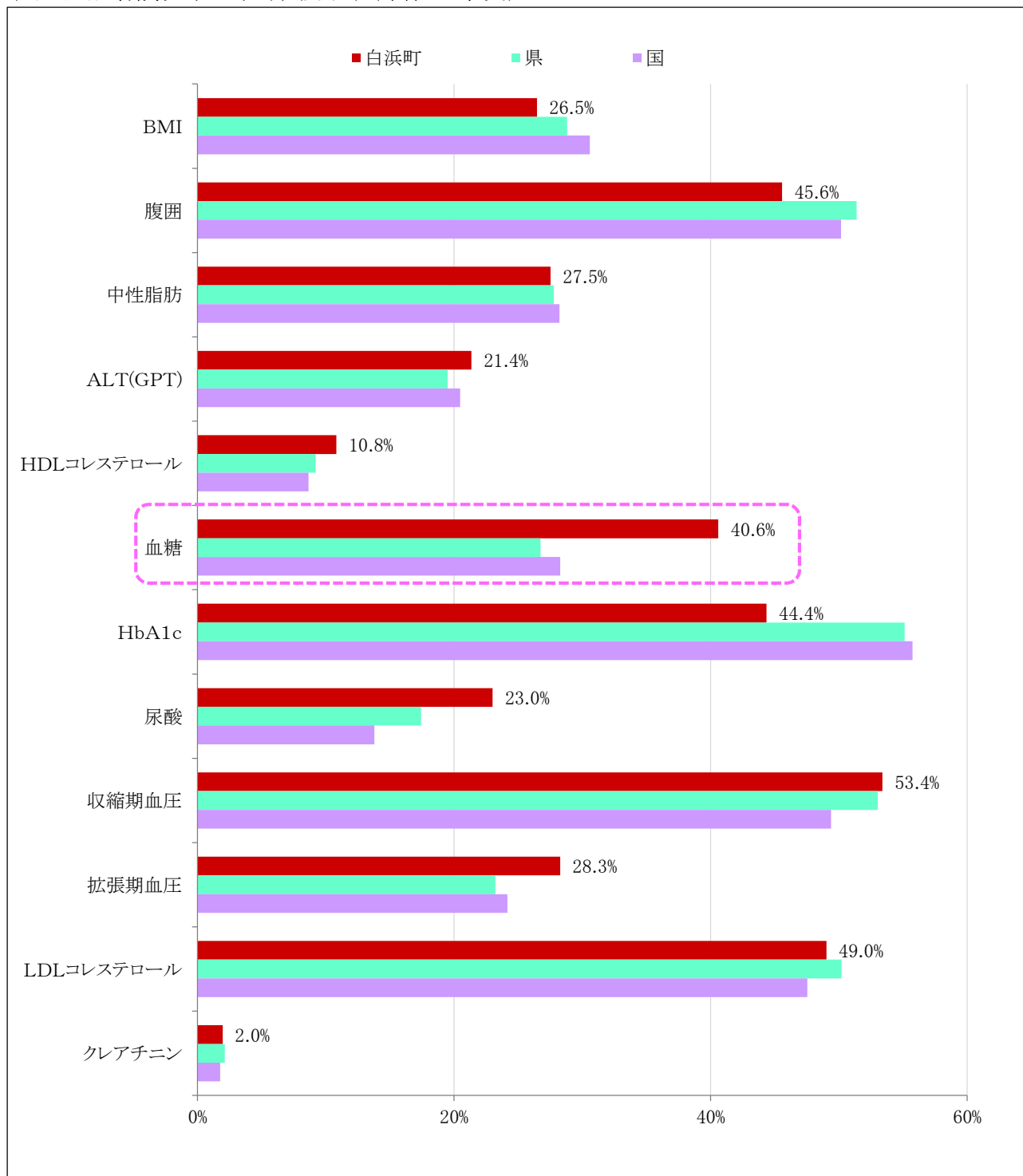
特定健診有所見者の割合(全体)(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「厚生労働省様式(様式6-2~7)」

男性の有所見者割合は「収縮期血圧」53.4%、「LDLコレステロール」49.0%、「HbA1c」44.4%、「血糖」40.6%の順に高くなっています。特に、「血糖」の有所見者の割合は、県や国と比較しても上回っている状況です。

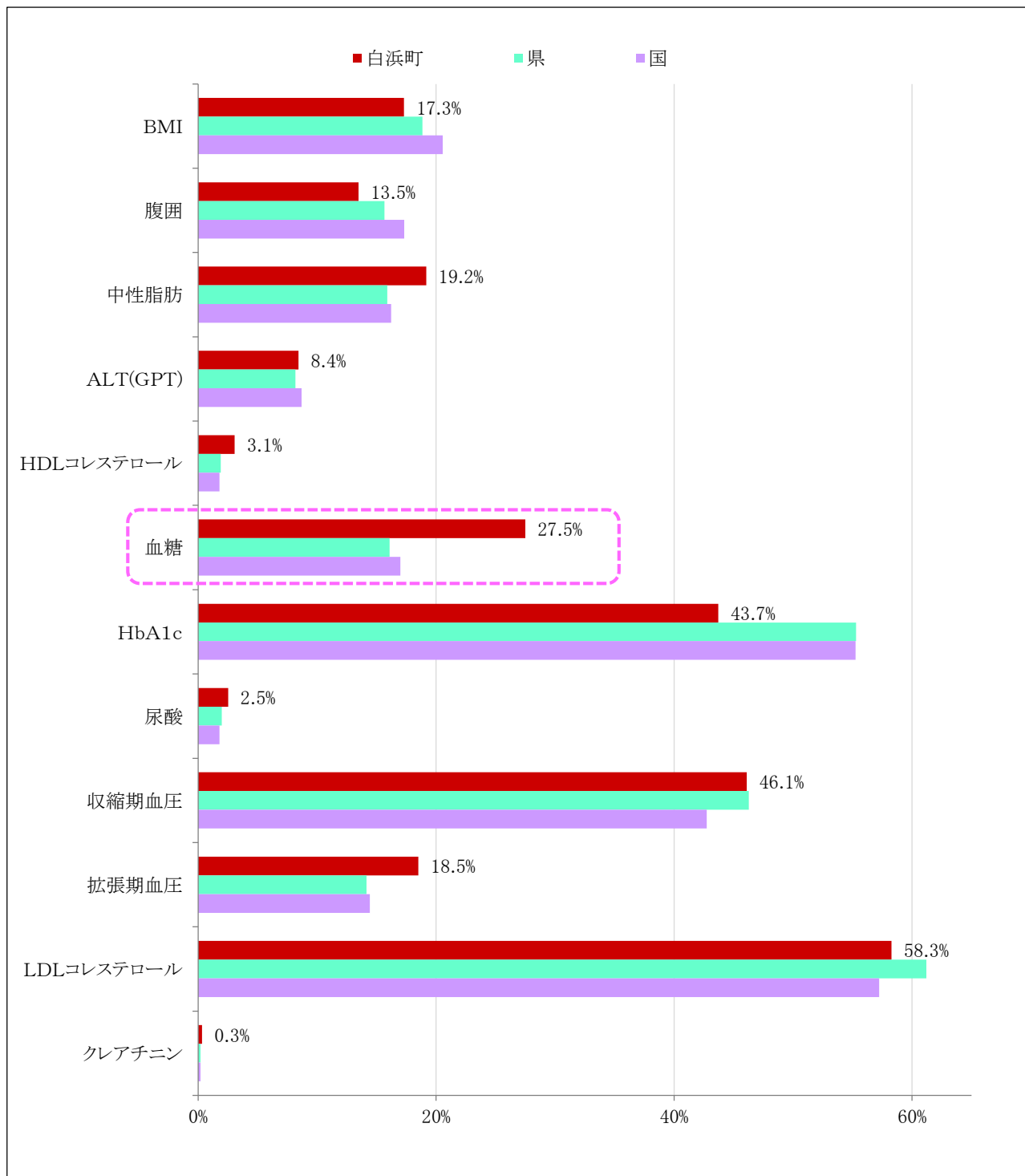
特定健診有所見者の割合(男性)(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「厚生労働省様式(様式6-2~7)」

女性の有所見者割合は「LDLコレステロール」58.3%、「収縮期血圧」46.1%、「HbA1c」43.7%、「血糖」27.5%の順に高くなっています。特に、「血糖」の有所見者の割合は、県や国と比較しても上回っている状況です。

特定健診有所見者の割合(女性)(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「厚生労働省様式(様式6-2~7)」

⑦有所見者の年代別の状況

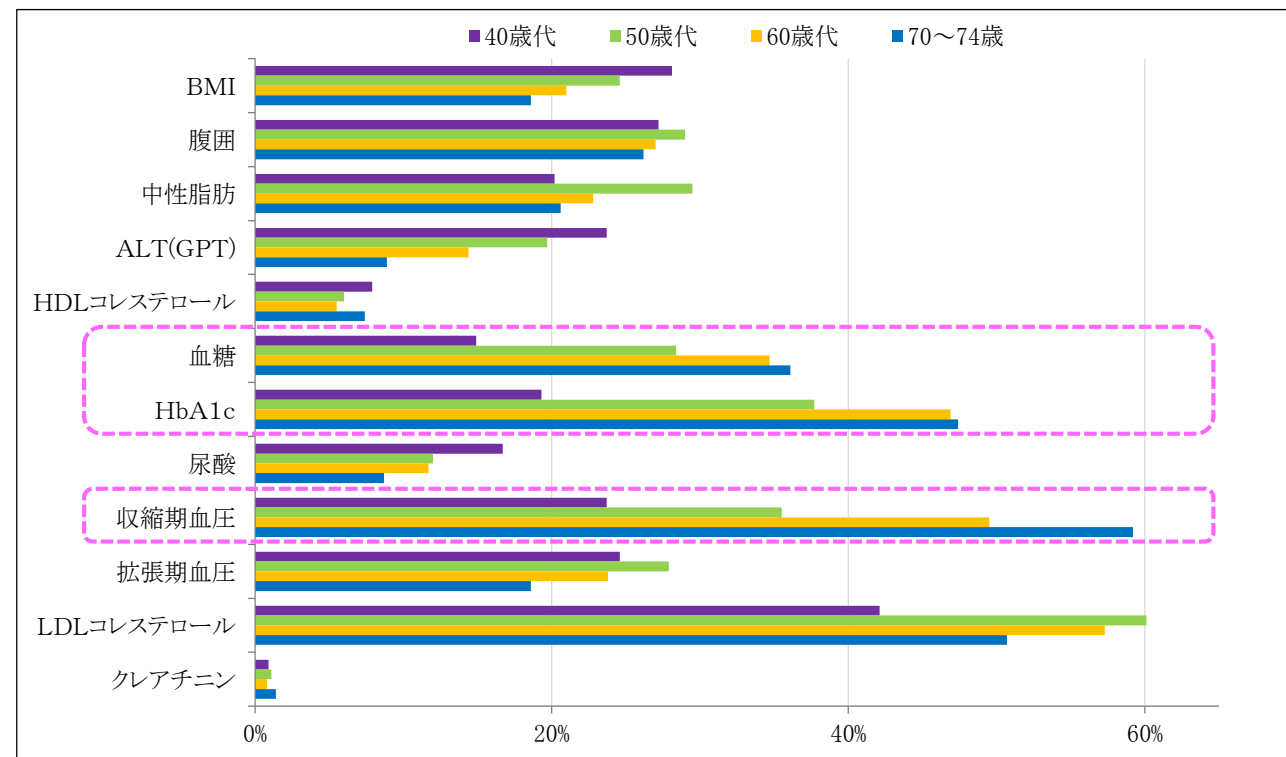
有所見者を年代別にみると、「血糖」「HbA1c」「収縮期血圧」といった項目は、50歳代から有所見者割合が高くなっています。

特定健診有所見者の割合(平成28年度)

区分	40歳代		50歳代		60歳代		70～74歳	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
BMI	32	28.1%	45	24.6%	161	21.0%	96	18.6%
腹囲	31	27.2%	53	29.0%	207	27.0%	135	26.2%
中性脂肪	23	20.2%	54	29.5%	175	22.8%	106	20.6%
ALT(GPT)	27	23.7%	36	19.7%	110	14.4%	46	8.9%
HDLコレステロール	9	7.9%	11	6.0%	42	5.5%	38	7.4%
血糖	17	14.9%	52	28.4%	266	34.7%	186	36.1%
HbA1c	22	19.3%	69	37.7%	359	46.9%	244	47.4%
尿酸	19	16.7%	22	12.0%	90	11.7%	45	8.7%
収縮期血圧	27	23.7%	65	35.5%	379	49.5%	305	59.2%
拡張期血圧	28	24.6%	51	27.9%	182	23.8%	96	18.6%
LDLコレステロール	48	42.1%	110	60.1%	439	57.3%	261	50.7%
クレアチニン	1	0.9%	2	1.1%	6	0.8%	7	1.4%

出典:国保データベース(KDB)システム「厚生労働省様式(様式6-2～7)」

特定健診有所見者の割合(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「厚生労働省様式(様式6-2～7)」

(4) 介護保険の状況

平成28年度認定率は20.3%となっており県や国と比較すると低くなっていますが、同規模と比較すると高い状況です。

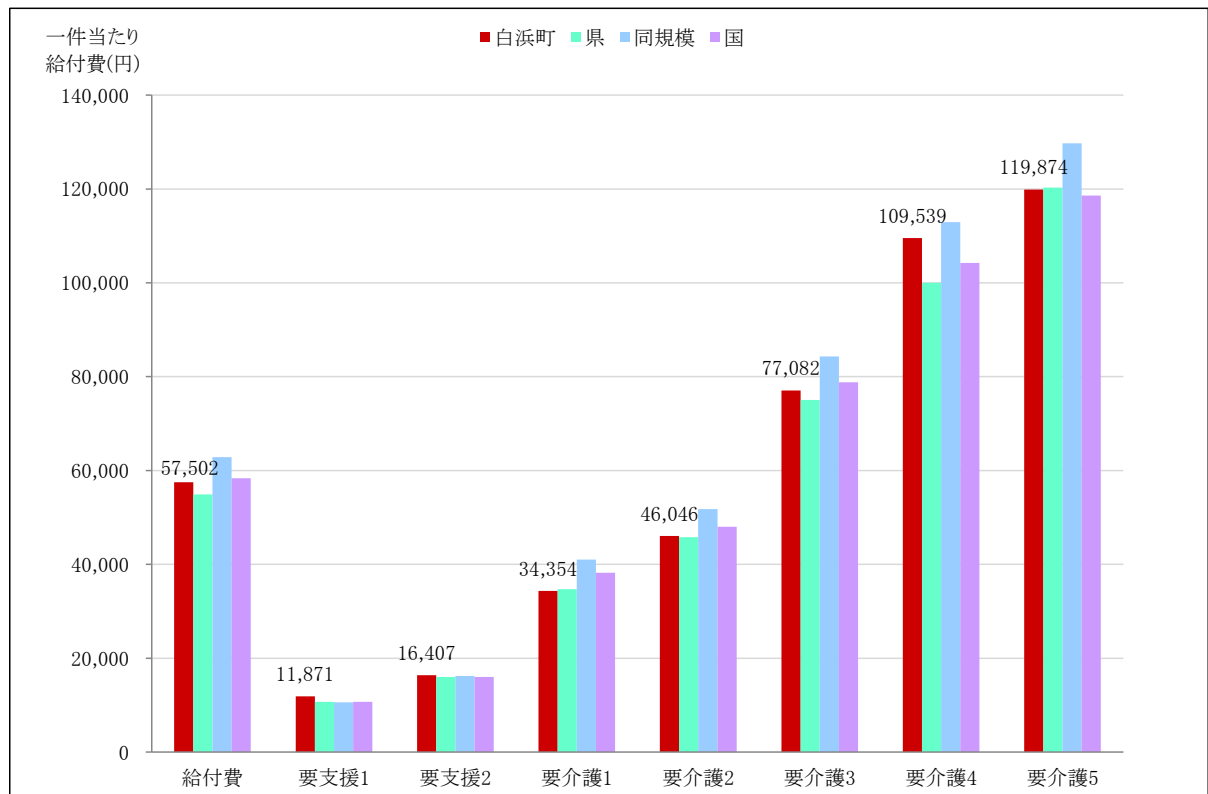
介護認定理由については、がんが最も多く、次いで脳血管疾患、認知症、パーキンソン病の順になっています。

認定率及び給付費等の状況(平成28年度)

区分	白浜町	県	同規模	国
認定率	20.3%	25.3%	19.5%	21.2%
認定者数(人)	1,562	69,962	219,963	6,034,085
第1号(65歳以上)	1,523	68,550	214,190	5,882,340
第2号(40～64歳)	39	1,412	5,773	151,745

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

一件当たり要介護度別給付費(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

介護認定理由にかかる疾病

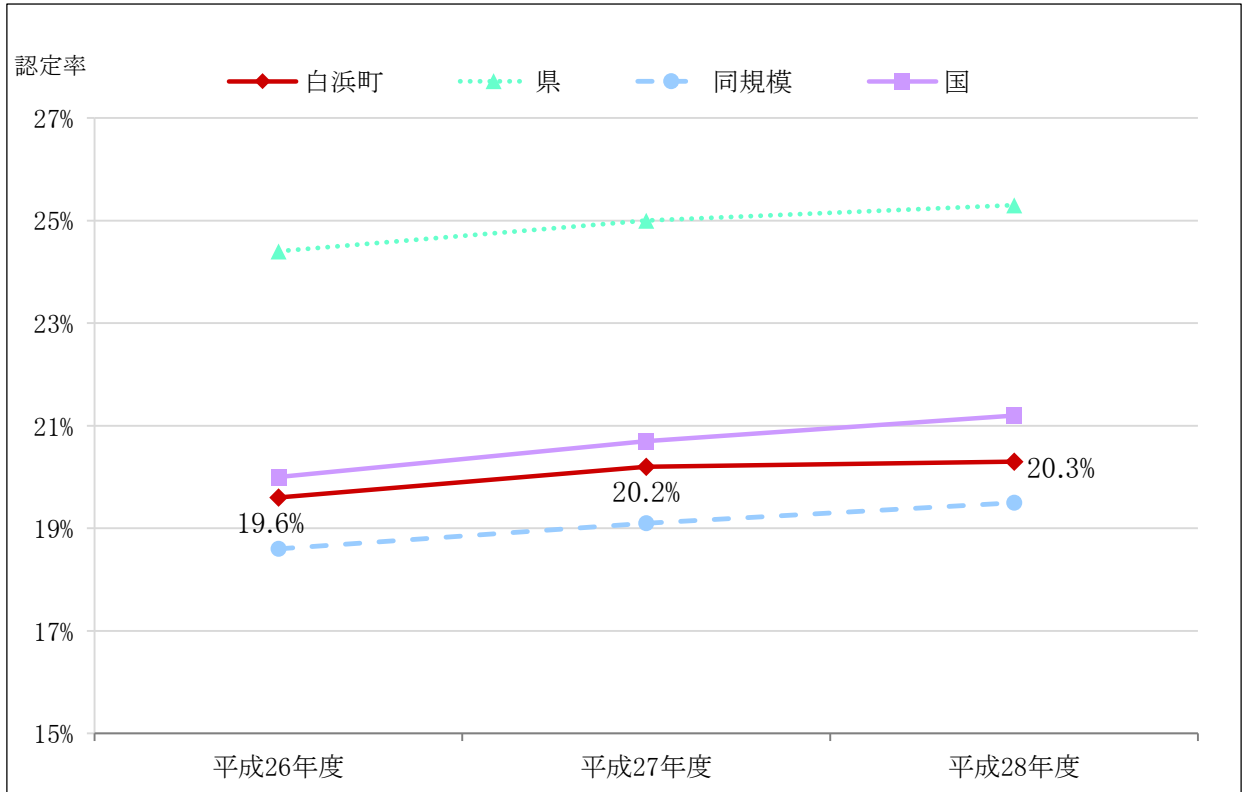
(単位:人)

区分	脳血管疾患	初老期の認知症	パーキンソン病関連	がん(末期)	その他	合計
平成26年度	11	5	5	2	7	30
平成27年度	7	5	5	3	5	25
平成28年度	5	4	3	6	5	23

出典:白浜町介護保険事業システム

認定率は町・県・国・同規模ともに、ほぼ同様に推移しています。

年度別 認定率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

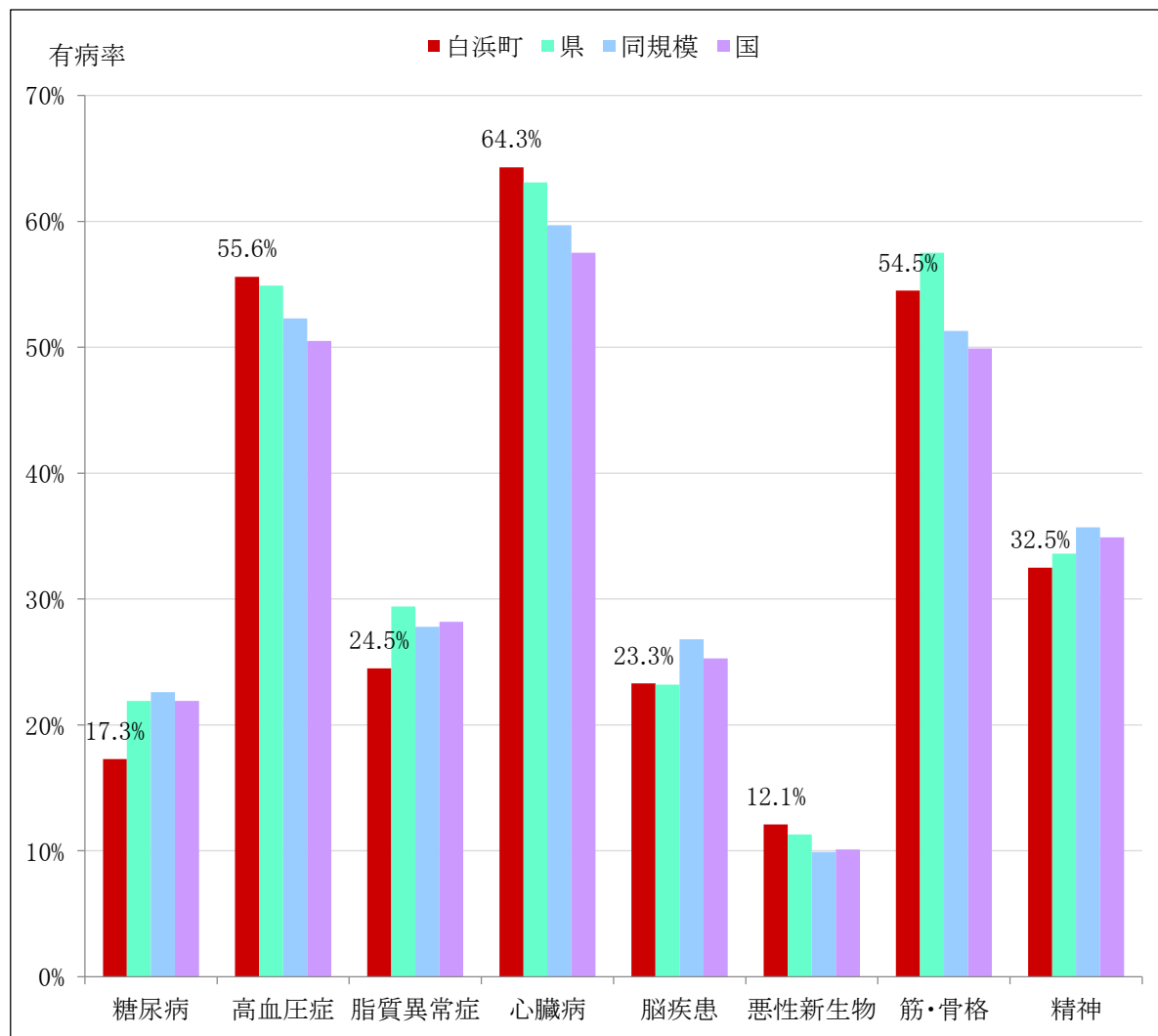
年度別 認定率及び認定者数

区分		認定率	認定者数(人)		
				第1号 (65歳以上)	第2号 (40歳～64歳)
白浜町	平成26年度	19.6%	1,533	1,500	33
	平成27年度	20.2%	1,538	1,504	34
	平成28年度	20.3%	1,562	1,523	39
県	平成26年度	24.4%	67,942	66,469	1,473
	平成27年度	25.0%	69,311	67,878	1,433
	平成28年度	25.3%	69,962	68,550	1,412
同規模	平成26年度	18.6%	217,861	211,550	6,311
	平成27年度	19.1%	215,880	209,996	5,884
	平成28年度	19.5%	219,963	214,190	5,773
国	平成26年度	20.0%	5,324,880	5,178,997	145,883
	平成27年度	20.7%	5,751,982	5,602,383	149,599
	平成28年度	21.2%	6,034,085	5,882,340	151,745

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

平成28年度認定者の有病状況をみると心臓病64.3%、次いで高血圧症55.6%、筋・骨格54.5%の順となっており、県や国と同じ傾向を示しています。

認定者の疾病別有病状況(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(5) がん検診の状況

平成28年度のがん検診受診率は、胃がん13.3%、大腸がん10.2%、子宮頸がん14.1%、乳がん12.7%、肺がん12.6%といずれも低い状況です。

がん検診受診率の状況(平成28年度)

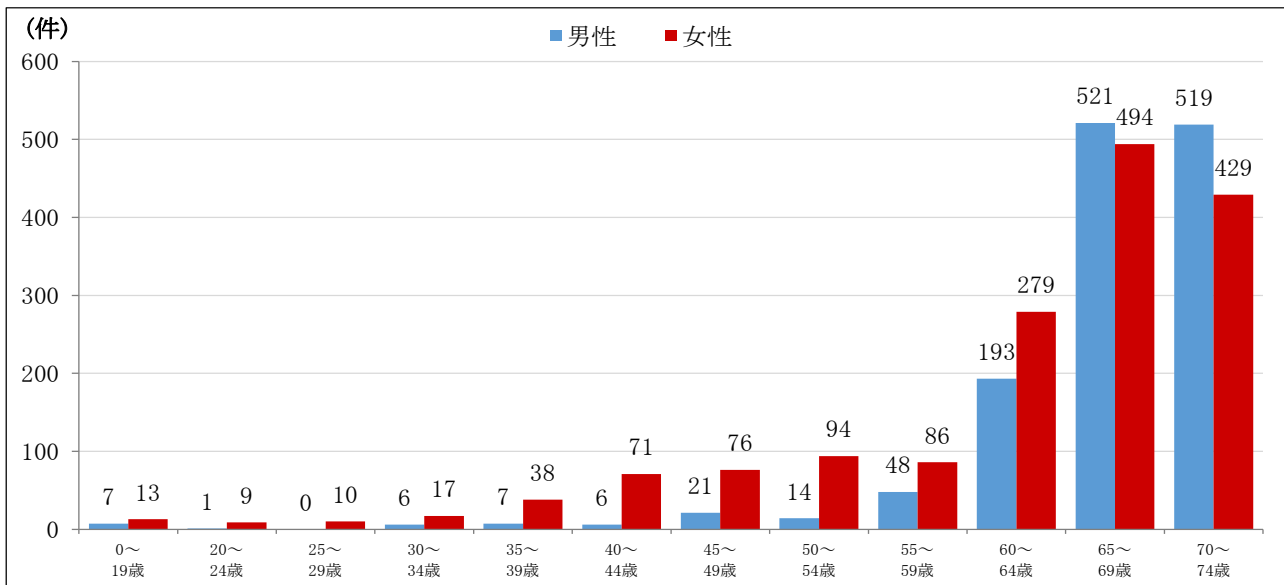
胃がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	肺がん
13.3%	10.2%	14.1%	12.7%	12.6%

出典:白浜町健康管理システム

(6) 新生物の状況

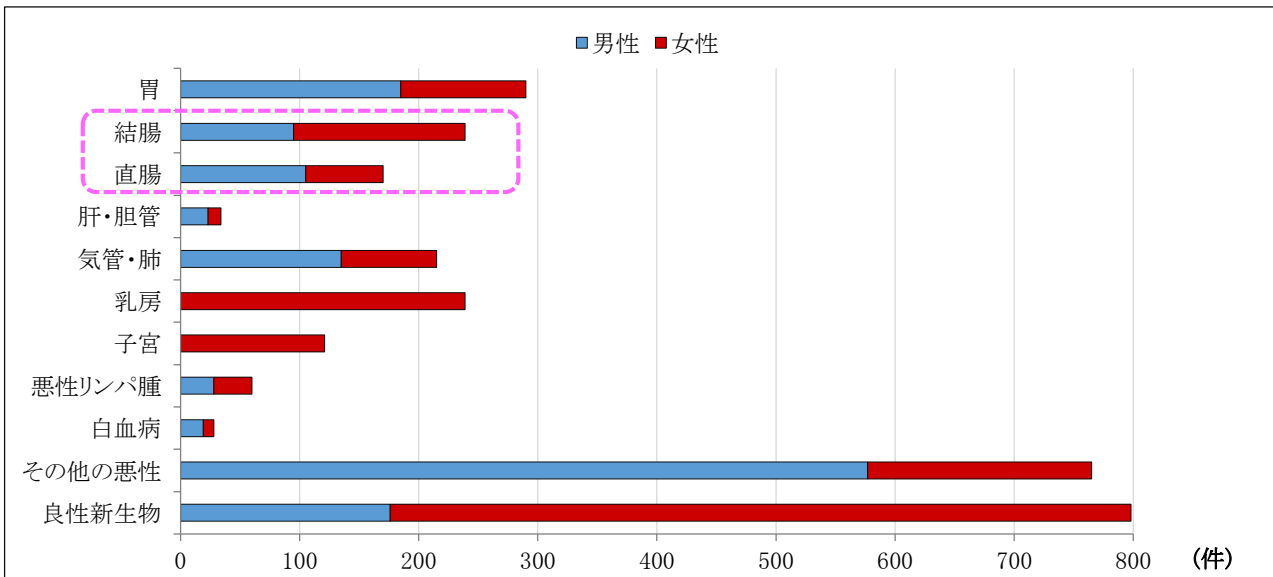
平成28年度新生物のレセプト件数を年齢階層別にみると、年齢とともに増加傾向にあり、特に60歳代から増加しています。部位別では、「結腸」「直腸」を合わせた大腸の件数が「胃」を上回って多くなっています。（「良性新生物」を除く。）

新生物の年齢階層別レセプト件数(平成28年度)



出典: 病類別疾病分類基礎データ(和歌山県国民健康保険団体連合会)

新生物の部位別レセプト件数(平成28年度)



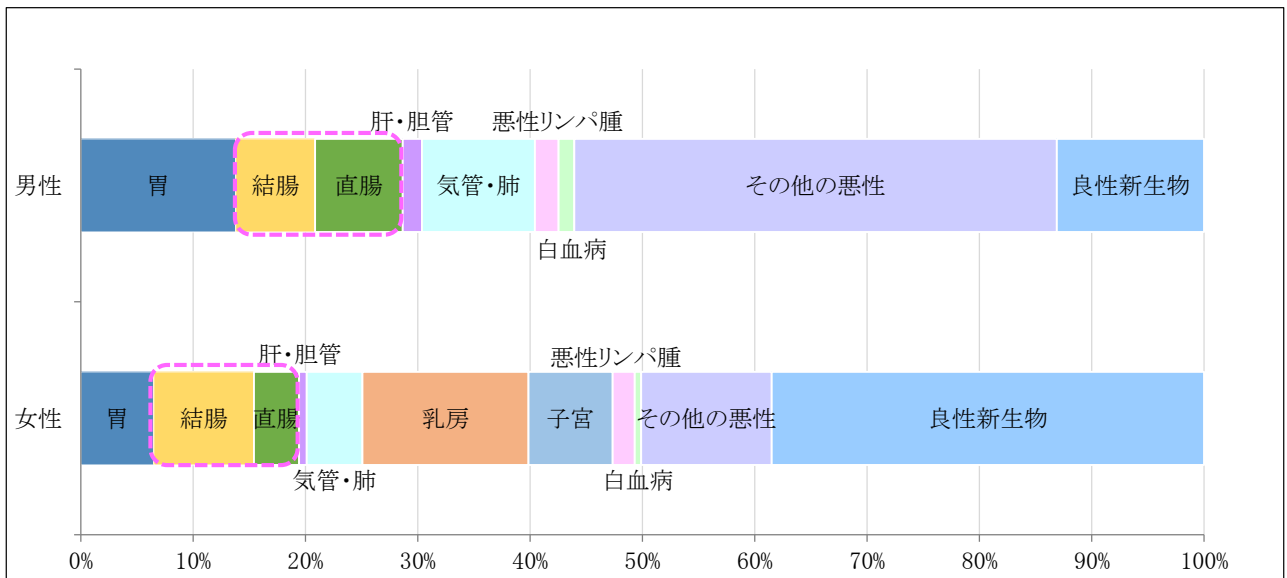
出典: 病類別疾病分類基礎データ(和歌山県国民健康保険団体連合会)

新生物の部位別件数[入院+入院外]及び構成割合(平成28年度)

	男		女		計	
	件数(件)	割合	件数(件)	割合	件数(件)	割合
胃の悪性新生物	185	13.8%	105	6.5%	290	9.8%
結腸の悪性新生物	95	7.1%	144	8.9%	239	8.1%
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	105	7.8%	65	4.0%	170	5.7%
肝及び肝内胆管の悪性新生物	23	1.7%	11	0.7%	34	1.1%
気管、気管支及び肺の悪性新生物	135	10.1%	80	5.0%	215	7.3%
乳房の悪性新生物	0	0.0%	239	14.8%	239	8.1%
子宮の悪性新生物	0	0.0%	121	7.5%	121	4.1%
悪性リンパ腫	28	2.1%	32	2.0%	60	2.0%
白血病	19	1.4%	9	0.6%	28	0.9%
その他の悪性新生物	577	43.0%	188	11.6%	765	25.9%
良性新生物	176	13.1%	622	38.5%	798	27.0%
総数	1,343	100.0%	1,616	100.0%	2,959	100.0%

出典:病類別疾病分類基礎データ(和歌山県国民健康保険団体連合会)

男女別新生物の部位別レセプト状況(平成28年度)



出典:病類別疾病分類基礎データ(和歌山県国民健康保険団体連合会)

(7) 死因の状況

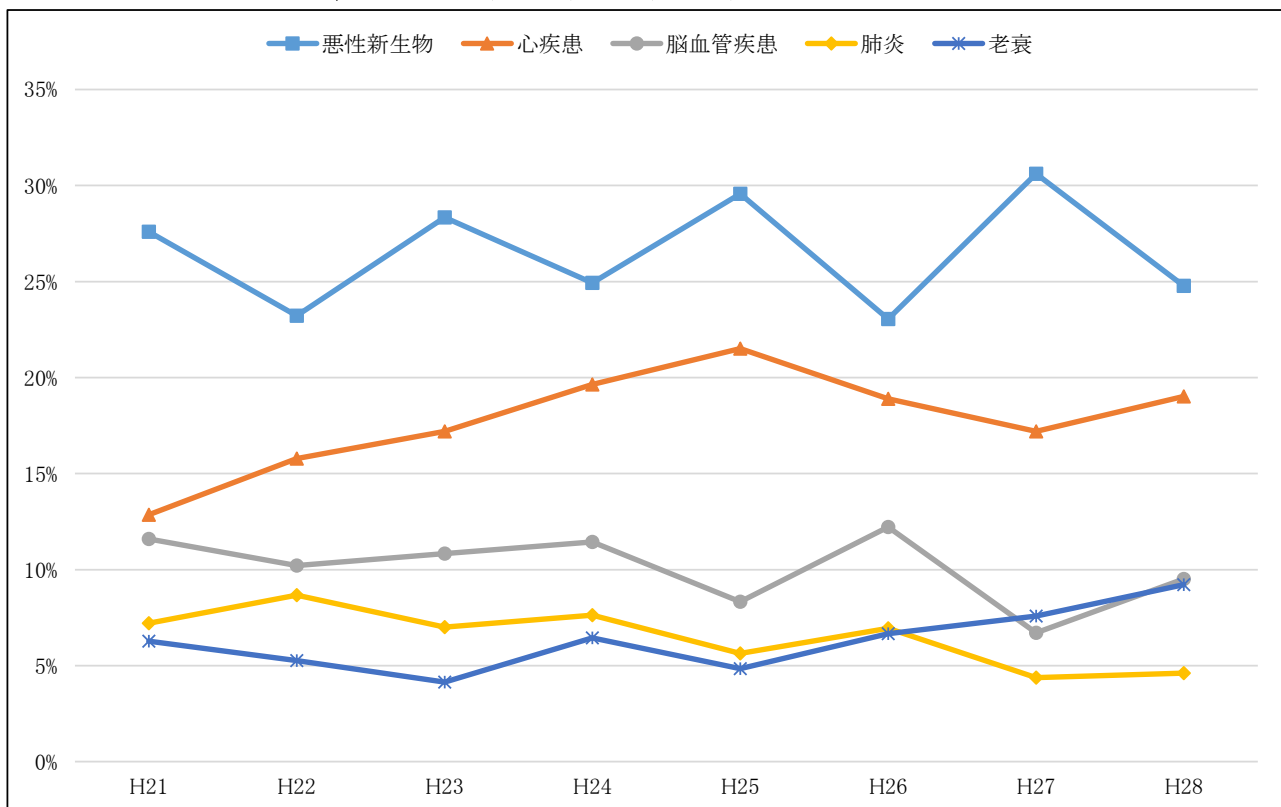
平成28年選択死因別死亡割合では、悪性新生物24.8%が最も高く、次いで心疾患19.0%、脳血管疾患9.5%、老衰9.2%、肺炎4.6%の順になっています。

選択死因別死亡数と割合(平成21年～平成28年)

	H21年		H22年		H23年		H24年		H25年		H26年		H27年		H28年	
	死亡数(人)	割合	死亡数(人)	割合	死亡数(人)	割合	死亡数(人)	割合	死亡数(人)	割合	死亡数(人)	割合	死亡数(人)	割合	死亡数(人)	割合
結核	-	0.0%	-	0.0%	2	0.6%	1	0.3%	-	0.0%	-	0.0%	2	0.6%	-	0.0%
悪性新生物	88	27.6%	75	23.2%	89	28.3%	85	24.9%	110	29.6%	83	23.1%	105	30.6%	86	24.8%
糖尿病	4	1.3%	3	0.9%	5	1.6%	6	1.8%	5	1.3%	4	1.1%	3	0.9%	5	1.4%
高血圧性疾患	1	0.3%	7	2.2%	2	0.6%	3	0.9%	4	1.1%	3	0.8%	1	0.3%	1	0.3%
心疾患	41	12.9%	51	15.8%	54	17.2%	67	19.6%	80	21.5%	68	18.9%	59	17.2%	66	19.0%
脳血管疾患	37	11.6%	33	10.2%	34	10.8%	39	11.4%	31	8.3%	44	12.2%	23	6.7%	33	9.5%
大動脈瘤及びび離	1	0.3%	2	0.6%	4	1.3%	3	0.9%	1	0.3%	5	1.4%	4	1.2%	5	1.4%
肺炎	23	7.2%	28	8.7%	22	7.0%	26	7.6%	21	5.6%	25	6.9%	15	4.4%	16	4.6%
慢性閉塞性肺疾患	8	2.5%	10	3.1%	7	2.2%	5	1.5%	10	2.7%	8	2.2%	5	1.5%	6	1.7%
喘息	-	0.0%	1	0.3%	-	0.0%	1	0.3%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%
肝疾患	6	1.9%	3	0.9%	4	1.3%	2	0.6%	5	1.3%	9	2.5%	1	0.3%	3	0.9%
腎不全	4	1.3%	4	1.2%	10	3.2%	6	1.8%	5	1.3%	8	2.2%	8	2.3%	9	2.6%
老衰	20	6.3%	17	5.3%	13	4.1%	22	6.5%	18	4.8%	24	6.7%	26	7.6%	32	9.2%
不慮の事故	15	4.7%	15	4.6%	10	3.2%	8	2.3%	19	5.1%	7	1.9%	8	2.3%	10	2.9%
自殺	8	2.5%	4	1.2%	5	1.6%	5	1.5%	2	0.5%	4	1.1%	5	1.5%	6	1.7%
その他の死因	63	19.7%	70	21.7%	53	16.9%	62	18.2%	61	16.4%	68	18.9%	78	22.7%	69	19.9%
全死因	319	100.0%	323	100.0%	314	100.0%	341	100.0%	372	100.0%	360	100.0%	343	100.0%	347	100.0%

出典:和歌山県HP 和歌山県人口動態統計の概況

選択死因別死亡割合上位5項目(平成21年～平成28年)



出典:和歌山県HP 和歌山県人口動態統計の概況

2. 医療情報分析結果

(1) 基礎統計

平成28年度の一カ月平均の被保険者数は7,209人で、平成26年度7,830人より減少しており、平成28年度の医療費は約20億6,629万円で、平成26年度約21億5,982万円より9,353万円減少しています。また、一カ月平均の患者数は3,467人で、平成26年度3,830人より減少しています。

年度別 基礎統計

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	
A	一カ月平均の被保険者数(人)	7,830	7,582	7,209	
B	レセプト件数(件)	入院外	60,196	57,834	54,007
		入院	1,727	1,573	1,559
		調剤	32,063	31,740	30,431
		合計	93,986	91,147	85,997
C	医療費(円) ※	2,159,821,620	2,217,351,490	2,066,289,350	
D	一カ月平均の患者数(人) ※	3,830	3,689	3,467	
C/A	被保険者一人当たりの医療費(円)	275,839	292,456	286,630	
C/B	レセプト一件当たりの医療費(円)	22,980	24,327	24,027	
D/A	有病率(%)	48.9%	48.7%	48.1%	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

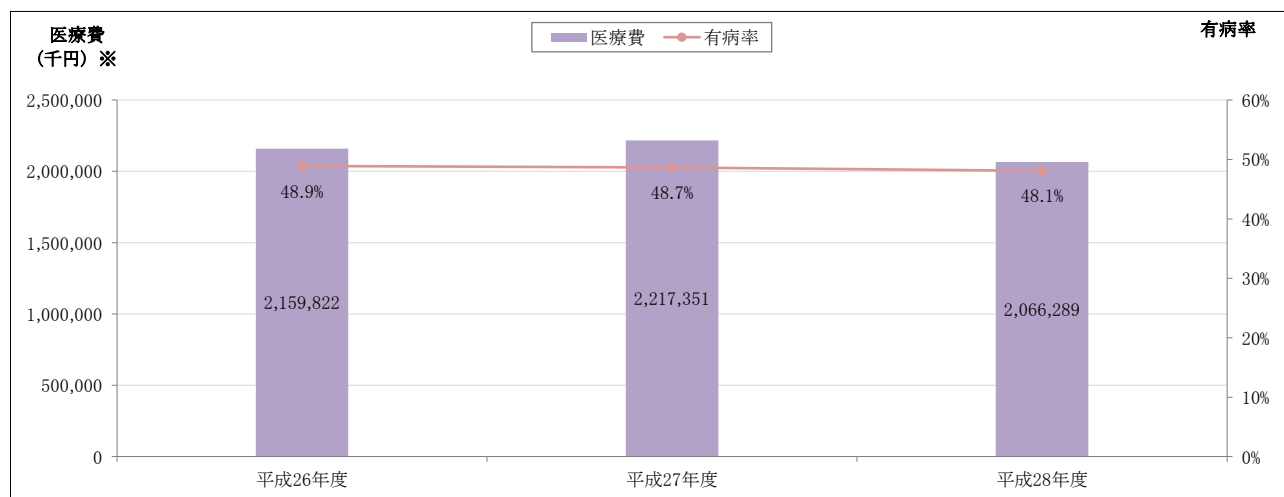
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

※一カ月平均の患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は一人とし、年度毎に集計。そのため他統計とは一致しない。

年度別 医療費及び有病率



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

(2) 高額レセプトの件数及び医療費

① 高額レセプトの件数及び割合

平成28年度の高額レセプトは750件で、レセプト件数では全体の0.9%ですが、医療費は約7億3,635万円となり、全体の35.6%を占めています。

年々、高額レセプトの占める割合が大きくなっています。

年度別 高額レセプトの件数及び医療費

		平成26年度	平成27年度	平成28年度
A	レセプト件数(件)	93,986	91,147	85,997
B	高額レセプト件数(件)	681	740	750
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.7%	0.8%	0.9%
C	医療費(円) ※	2,159,821,620	2,217,351,490	2,066,289,350
D	高額レセプトの医療費(円) ※	649,382,220	772,116,530	736,345,650
E	その他レセプトの医療費(円) ※	1,510,439,400	1,445,234,960	1,329,943,700
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	30.1%	34.8%	35.6%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36ヵ月分)。

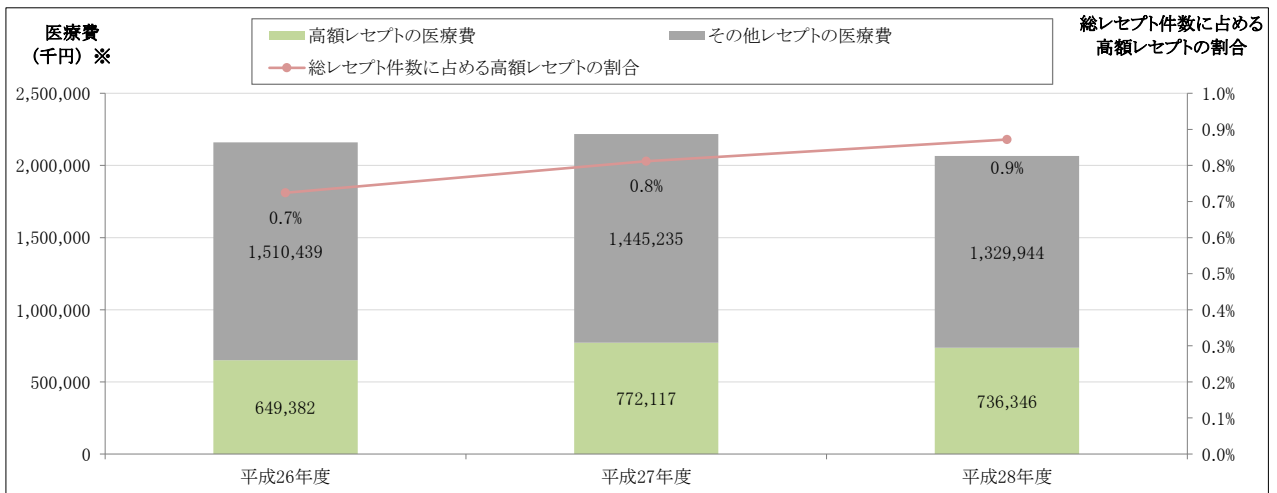
資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

※高額レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプトの医療費。

※その他レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプト以外の医療費。

年度別 高額レセプトの医療費及び件数割合



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36ヵ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

(3) 疾病別医療費

①大分類による疾病別医療費統計

大分類による医療費をみると、循環器系の疾患が16.3%と最も高く、レセプト件数も最も多い状況です。

大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病分類(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費(円) ※	構成比	順位	レセプト件数 ※	順位	患者数(人) ※	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	52,435,582	2.6%	13	6,211	13	1,788	9	29,326	16
II. 新生物<腫瘍>	323,642,025	15.8%	2	7,688	9	2,013	7	160,776	2
III. 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	59,089,106	2.9%	12	1,874	17	528	16	111,911	5
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	172,809,037	8.4%	4	29,137	2	2,917	4	59,242	10
V. 精神及び行動の障害	135,619,802	6.6%	8	7,373	10	791	14	171,454	1
VI. 神経系の疾患	140,821,693	6.9%	7	14,826	6	1,556	11	90,502	7
VII. 眼及び付属器の疾患	73,404,655	3.6%	10	9,297	7	2,225	6	32,991	15
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	12,453,463	0.6%	16	2,073	16	610	15	20,416	18
IX. 循環器系の疾患	334,840,214	16.3%	1	33,393	1	2,933	3	114,163	4
X. 呼吸器系の疾患	106,286,144	5.2%	9	15,714	5	3,156	1	33,677	14
X I. 消化器系の疾患 ※	157,801,743	7.7%	5	25,157	3	3,093	2	51,019	12
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	34,847,641	1.7%	14	8,909	8	2,007	8	17,363	20
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	178,033,841	8.7%	3	20,918	4	2,572	5	69,220	9
X IV. 泌尿路生殖器系の疾患	147,589,307	7.2%	6	7,230	11	1,441	12	102,421	6
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	4,110,002	0.2%	19	171	19	58	19	70,862	8
X VI. 周産期に発生した病態 ※	1,396,394	0.1%	20	19	21	12	21	116,366	3
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	6,174,557	0.3%	18	461	18	119	18	51,887	11
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,112,617	1.6%	15	6,667	12	1,585	10	20,260	19
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	67,226,946	3.3%	11	4,578	14	1,368	13	49,143	13
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	10,266,995	0.5%	17	2,633	15	439	17	23,387	17
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	270,026	0.0%	21	145	20	40	20	6,751	21
合計	2,051,231,790			84,805		6,287		326,266	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

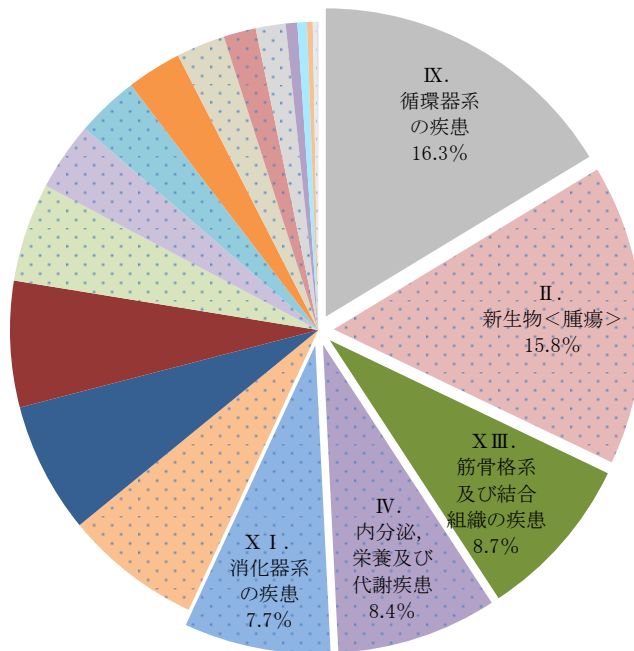
※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

疾病項目別医療費割合



- IX. 循環器系の疾患
- II. 新生物<腫瘍>
- XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患
- IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患
- XI. 消化器系の疾患
- XIV. 腎尿路生殖器系の疾患
- VI. 神経系の疾患
- V. 精神及び行動の障害
- X. 呼吸器系の疾患
- VII. 眼及び付属器の疾患
- XIX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響
- III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- I. 感染症及び寄生虫症
- XII. 皮膚及び皮下組織の疾患
- XVIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
- VIII. 耳及び乳様突起の疾患
- XXI. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
- XVII. 先天奇形, 変形及び染色体異常
- XV. 妊娠, 分娩及び産じょく
- XVI. 周産期に発生した病態
- XXII. 特殊目的用コード
- 分類外

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

大分類による医療費をみると、平成26年度は新生物が医療費の1位でしたが、平成27年度以降は循環器系の疾患が1位となっています。

年度別 大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病分類(大分類)	平成26年度			平成27年度			平成28年度		
	医療費(円) ※	構成比	順位	医療費(円) ※	構成比	順位	医療費(円) ※	構成比	順位
I. 感染症及び寄生虫症	41,886,401	1.9%	12	97,981,578	4.4%	11	52,435,582	2.6%	13
II. 新生物<腫瘍>	362,503,733	16.9%	1	318,429,089	14.4%	2	323,642,025	15.8%	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	18,106,881	0.8%	15	53,714,877	2.4%	13	59,089,106	2.9%	12
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	190,792,756	8.9%	3	191,451,706	8.7%	4	172,809,037	8.4%	4
V. 精神及び行動の障害	146,225,278	6.8%	6	137,618,256	6.2%	7	135,619,802	6.6%	8
VI. 神経系の疾患	124,217,246	5.8%	9	128,384,949	5.8%	8	140,821,693	6.9%	7
VII. 眼及び付属器の疾患	103,103,618	4.8%	10	88,180,192	4.0%	12	73,404,655	3.6%	10
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	14,117,069	0.7%	16	11,918,332	0.5%	16	12,453,463	0.6%	16
IX. 循環器系の疾患	357,302,794	16.6%	2	367,504,584	16.6%	1	334,840,214	16.3%	1
X. 呼吸器系の疾患	130,489,793	6.1%	8	119,343,621	5.4%	9	106,286,144	5.2%	9
X I. 消化器系の疾患 ※	177,836,907	8.3%	4	157,395,350	7.1%	5	157,801,743	7.7%	5
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	38,149,474	1.8%	13	35,540,430	1.6%	14	34,847,641	1.7%	14
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	166,575,239	7.8%	5	204,041,490	9.2%	3	178,033,841	8.7%	3
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	137,015,427	6.4%	7	142,918,709	6.5%	6	147,589,307	7.2%	6
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく ※	3,934,729	0.2%	18	6,849,628	0.3%	18	4,110,002	0.2%	19
X VI. 周産期に発生した病態 ※	3,368,735	0.2%	19	1,883,854	0.1%	20	1,396,394	0.1%	20
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	3,101,758	0.1%	20	4,804,628	0.2%	19	6,174,557	0.3%	18
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23,093,069	1.1%	14	24,244,299	1.1%	15	32,112,617	1.6%	15
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	93,914,277	4.4%	11	105,504,377	4.8%	10	67,226,946	3.3%	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	12,449,720	0.6%	17	9,779,359	0.4%	17	10,266,995	0.5%	17
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
分類外	346,006	0.0%	21	402,972	0.0%	21	270,026	0.0%	21
合計	2,148,530,910			2,207,892,280			2,051,231,790		

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグループリングし算出。

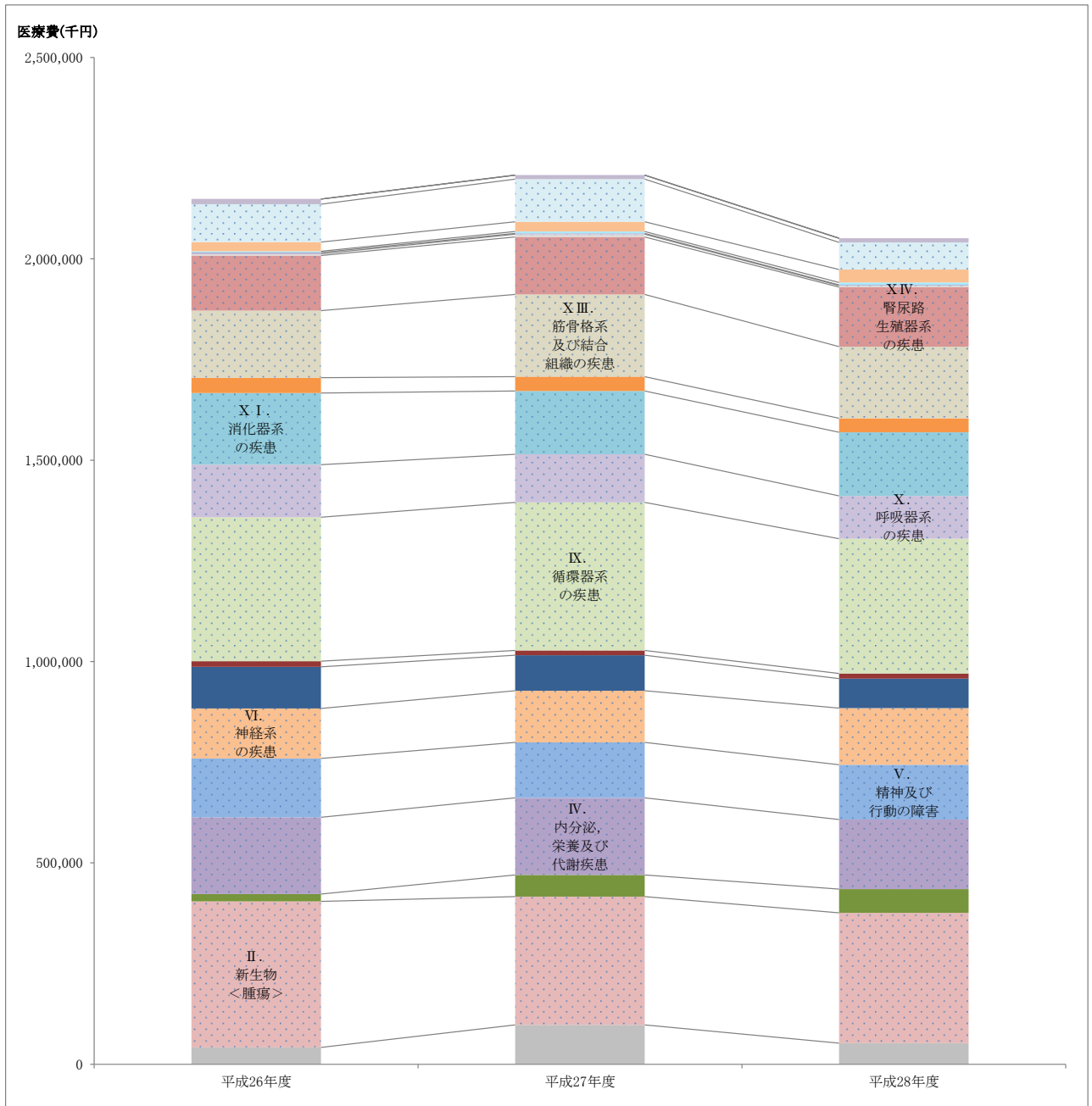
※医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠, 分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性があります。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性があります。

年度・疾病項目別医療費統計



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

医療費…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

②中分類による疾病別医療費統計

中分類による医療費をみると、生活習慣病である高血圧症疾患、腎不全、糖尿病が上位となっています。

中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円) ※	構成比 (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者数(人)
1	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	110,596,899	5.4%	1,047
2	0901	高血圧性疾患	102,289,907	5.0%	2,278
3	1402	腎不全	94,669,040	4.6%	134
4	0402	糖尿病	88,242,347	4.3%	1,676
5	1113	その他の消化器系の疾患	83,651,132	4.1%	1,848
6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	79,434,792	3.9%	220
7	0606	その他の神経系の疾患	78,802,883	3.8%	1,398
8	0903	その他の心疾患	76,106,302	3.7%	1,012
9	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	65,371,992	3.2%	182
10	0403	脂質異常症	58,674,975	2.9%	1,490

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

中分類による患者数をみると、医療費と同じく生活習慣病である高血圧性疾患、糖尿病、脂質異常症が上位となっています。

中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円)	患者数(人) ※	構成比 (患者数全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	102,289,907	2,278	36.2%
2	1113	その他の消化器系の疾患	83,651,132	1,848	29.4%
3	0703	屈折及び調節の障害	7,595,211	1,771	28.2%
4	0402	糖尿病	88,242,347	1,676	26.7%
5	1202	皮膚炎及び湿疹	17,291,868	1,530	24.3%
6	1105	胃炎及び十二指腸炎	21,285,635	1,528	24.3%
7	0704	その他の眼及び付属器の疾患	39,624,478	1,516	24.1%
8	0403	脂質異常症	58,674,975	1,490	23.7%
9	0606	その他の神経系の疾患	78,802,883	1,398	22.2%
10	1006	アレルギー性鼻炎	13,136,903	1,115	17.7%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

腎不全は、患者一人当たりの医療費が706,485円と高く、患者数も134人と多くなっているため、医療費が高額になっています。

また直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物も、患者一人当たりの医療費が455,062円で上位となっています。

中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

順位	疾病分類(中分類)		医療費(円) ※	患者数(人)	患者一人当たりの医療費(円)
1	0904	くも膜下出血	11,102,386	14	793,028
2	1402	腎不全	94,669,040	134	706,485
3	0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	14,432,521	21	687,263
4	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	20,022,743	44	455,062
5	0209	白血病	8,327,193	22	378,509
6	0503	統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	79,434,792	220	361,067
7	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	65,371,992	182	359,187
8	0601	パーキンソン病	20,576,543	59	348,755
9	0905	脳内出血	27,136,772	97	279,761
10	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	640,140	3	213,380

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

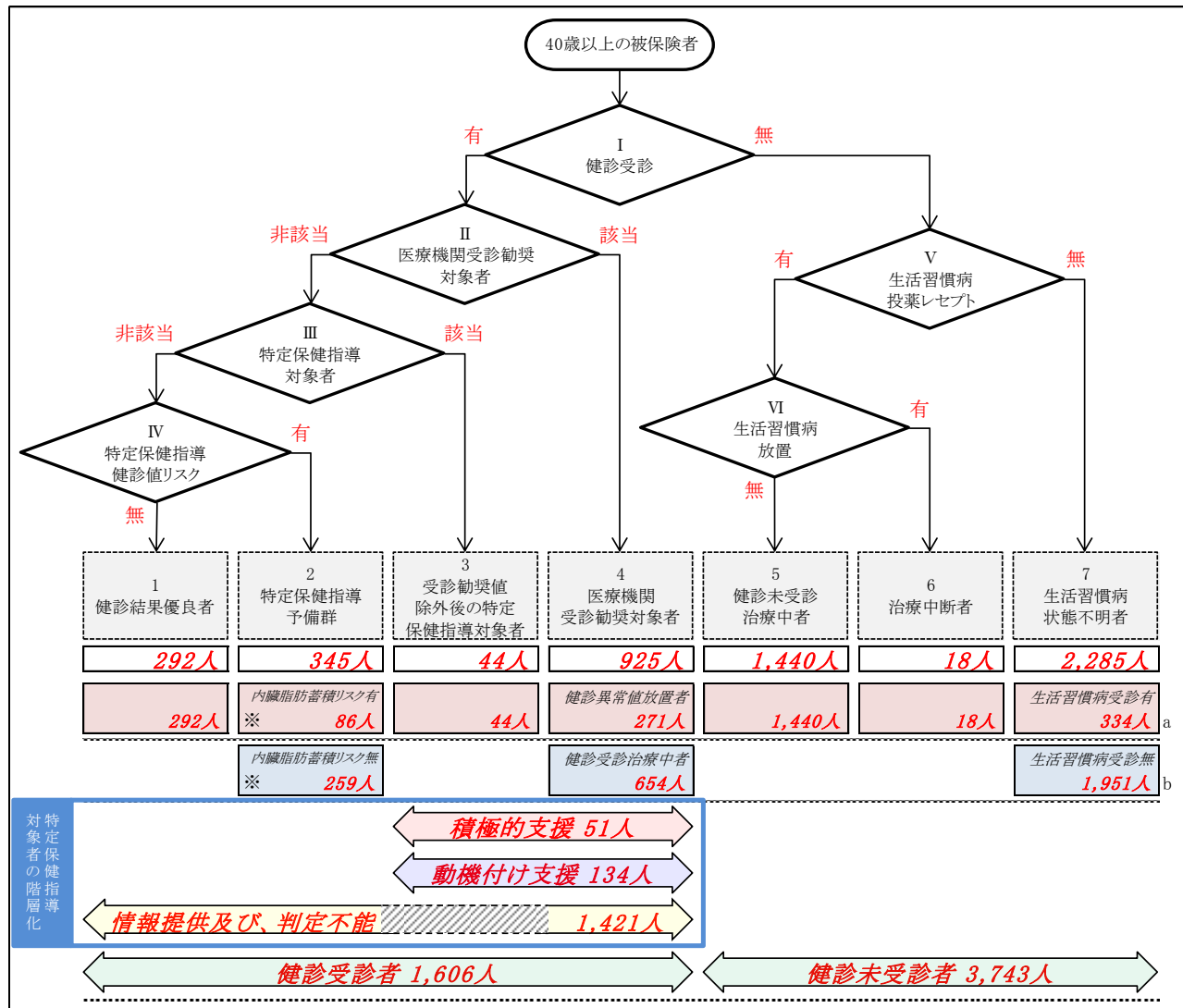
※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

(4) 特定健診及びレセプトデータによる指導対象者群分析

特定健診データとレセプトデータを組み合わせた分析を行います。40歳以上の被保険者について、特定健診データの有無や異常値の有無、生活習慣病にかかわるレセプトの有無等を判定し、7つのグループに分類し、分析結果を以下に示します。

左端の「1. 健診結果優良者」から「6. 治療中断者」まで順に健康状態が悪くなっており、「7. 生活習慣病状態不明者」は特定健診データ・レセプトデータから生活習慣病状態が確認できないグループです。

特定健診及びレセプトデータによる指導対象者群分析



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

各フローの詳細については巻末資料「1. 指導対象者群分析」のグループ分けの見方を参照。

※内臓脂肪蓄積リスク…腹囲・BMIにより内臓脂肪蓄積リスクを判定し階層化。

(5) 特定健診にかかる質問票の状況

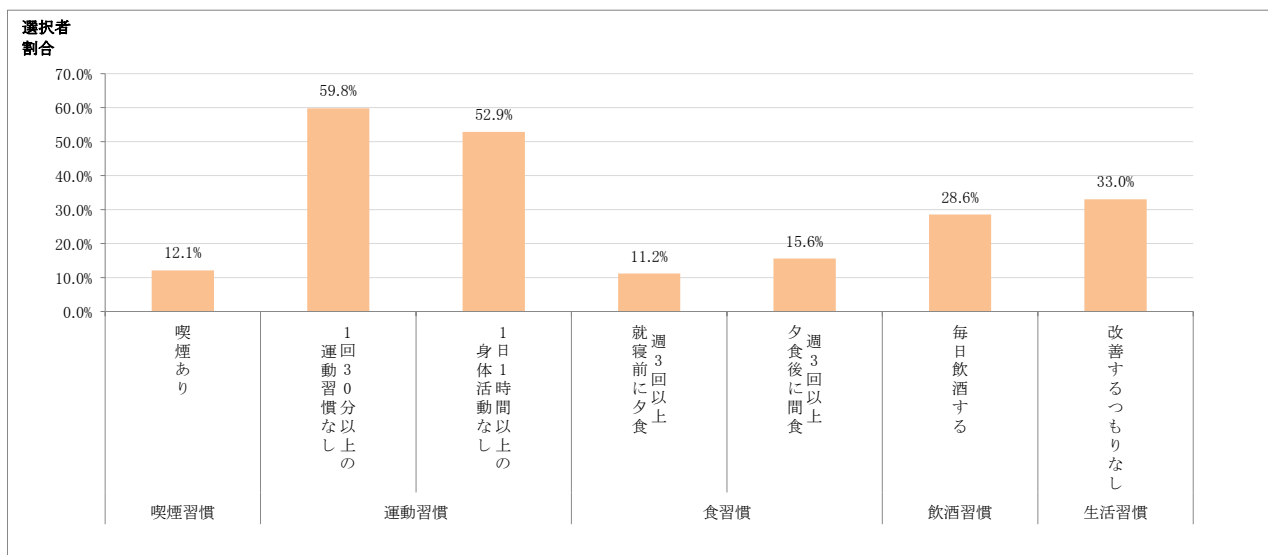
質問票の生活習慣の状況では、1回30分以上の運動習慣なしが59.8%、毎日飲酒するが28.6%、改善するつもりなしが33.0%と高い割合になっています。

質問別回答状況

質問の選択肢	喫煙習慣	運動習慣	
	喫煙あり	1回30分以上の運動習慣なし	1日1時間以上の身体活動なし
質問回答者数(人) ※	1,606	1,405	1,405
選択者数(人) ※	195	840	743
選択者割合 ※	12.1%	59.8%	52.9%

質問の選択肢	食習慣		飲酒習慣	生活習慣
	週3回以上就寝前に夕食	週3回以上夕食後に間食	毎日飲酒する	改善するつもりなし
質問回答者数(人)	1,386	1,386	1,470	1,338
選択者数(人)	155	216	420	442
選択者割合	11.2%	15.6%	28.6%	33.0%

質問別回答状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※質問回答者数…質問に回答した人数。

※選択者数…質問の選択肢を選択した人数。

※選択者割合…質問回答者のうち、各質問の選択肢を選択した人の割合。

質問回答内容

喫煙あり

…「現在、たばこを習慣的に吸っている。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。

1回30分以上の運動習慣なし

…「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上かつ1年以上実施。」の質問に対し、「いいえ」の回答数を集計。

1日1時間以上の身体活動なし

…「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施。」の質問に対し、「いいえ」の回答数を集計。

週3回以上就寝前に夕食

…「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。

週3回以上夕食後に間食

…「夕食後に間食(3食以外の夜食)をとることが週に3回以上ある。」の質問に対し、「はい」の回答数を集計。

毎日飲酒する

…「お酒(焼酎・清酒・ビール・洋酒など)を飲む頻度」の質問に対し、「毎日」の回答数を集計。

改善するつもりなし

…「運動や食生活等の生活習慣を改善してみようとおもいますか。」の質問に対し、「改善するつもりはない」の回答数を集計。

(6) 特定保健指導に係る分析

日本人の生活習慣の変化や高齢者の増加等により、近年、糖尿病等の生活習慣病の有病者・予備群が増加しており、生活習慣病を原因とする死亡は、全体の約3分の1にのぼると推計されています。厚生労働省は、40歳以上の被保険者へメタボの予防・解消に重点を置いた、生活習慣病予防のための特定健診・特定保健指導の実施を義務付けています。

「(1) 特定健診及びレセプトデータによる指導対象者群分析」にある「3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者」「4. 医療機関受診勧奨対象者」に該当する対象者より、特定保健指導対象者は185人です。このうち、積極的支援の対象者は51人、動機付け支援の対象者は134人です。

また、特定保健指導対象者のうち、血糖・血圧・脂質のリスク3因子の保有者は28人です。

特定保健指導対象者のリスク因子別保有状況

リスク因子数	リスク因子組み合わせ	積極的支援	動機付け支援	特定保健指導対象者
因子数4	血糖＋血圧＋脂質＋喫煙	5人	0人	5人
因子数3	血糖＋血圧＋脂質	7人	16人	23人
	血糖＋血圧＋喫煙	2人	1人	3人
	血糖＋脂質＋喫煙	2人	1人	3人
	血圧＋脂質＋喫煙	2人	2人	4人
因子数2	血糖＋血圧	8人	17人	25人
	血糖＋脂質	1人	3人	4人
	血圧＋脂質	11人	7人	18人
	血糖＋喫煙	0人	0人	0人
	血圧＋喫煙	4人	3人	7人
	脂質＋喫煙	7人	2人	9人
因子数1	血糖	1人	21人	22人
	血圧	0人	44人	44人
	脂質	0人	14人	14人
	喫煙	1人	0人	1人
因子数0	なし	0人	3人	3人

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

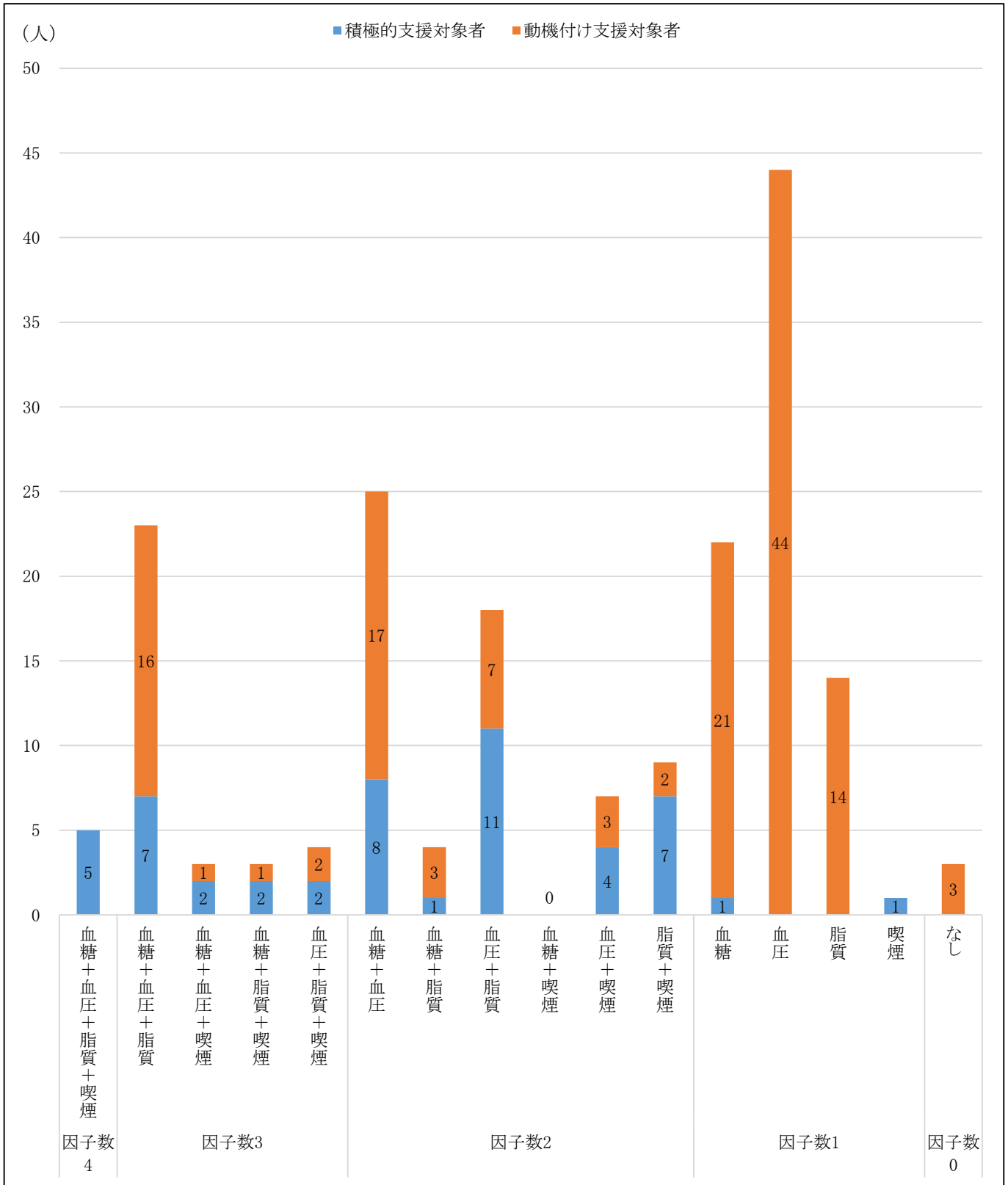
資格確認日…平成29年3月31日時点。

※リスク判定…健診検査値が保健指導判定値を超えている組み合わせ(喫煙については質問回答による)。そのため、厚生労働省が定める保健指導対象者の選定にない組み合わせの場合がある。

リスク判定の詳細は以下の通りとする。

- ①血糖…特定健診の検査値において、空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1c5.6%以上(NGSP)
- ②血圧…特定健診の検査値において、収縮期血圧が130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上
- ③脂質…特定健診の検査値において、中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
- ④喫煙…特定健診の生活習慣に関する質問票においてたばこを習慣的に吸っていると回答

特定保健指導対象者のリスク因子別該当状況



データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

(7) 人工透析に係る分析

人工透析者22人のうち、生活習慣病を起因とする疾病であるものは8人（36.4%）です。その全員が糖尿病を起因として透析となるⅡ型糖尿病であることが分かりました。

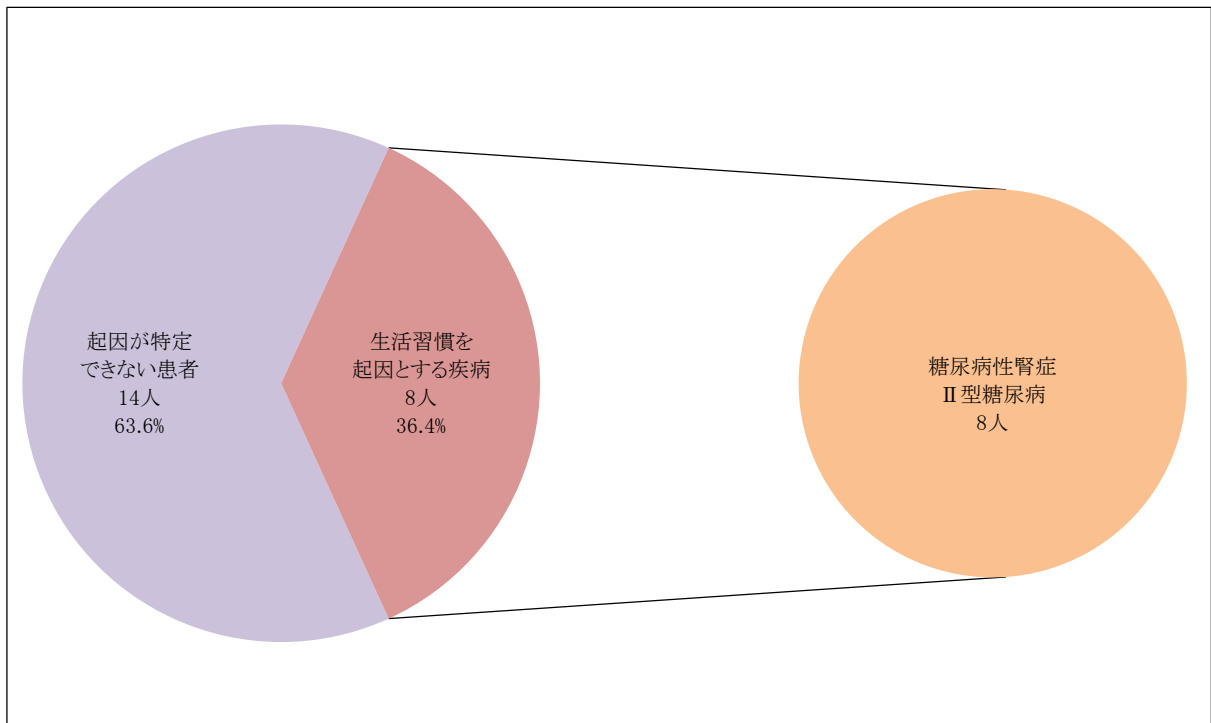
人工透析の患者数

透析療法の種類	透析患者数 (人)
血液透析のみ	22
腹膜透析のみ	0
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	22

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。現時点で資格喪失している被保険者についても集計します。緊急透析と思われる患者は除く。



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

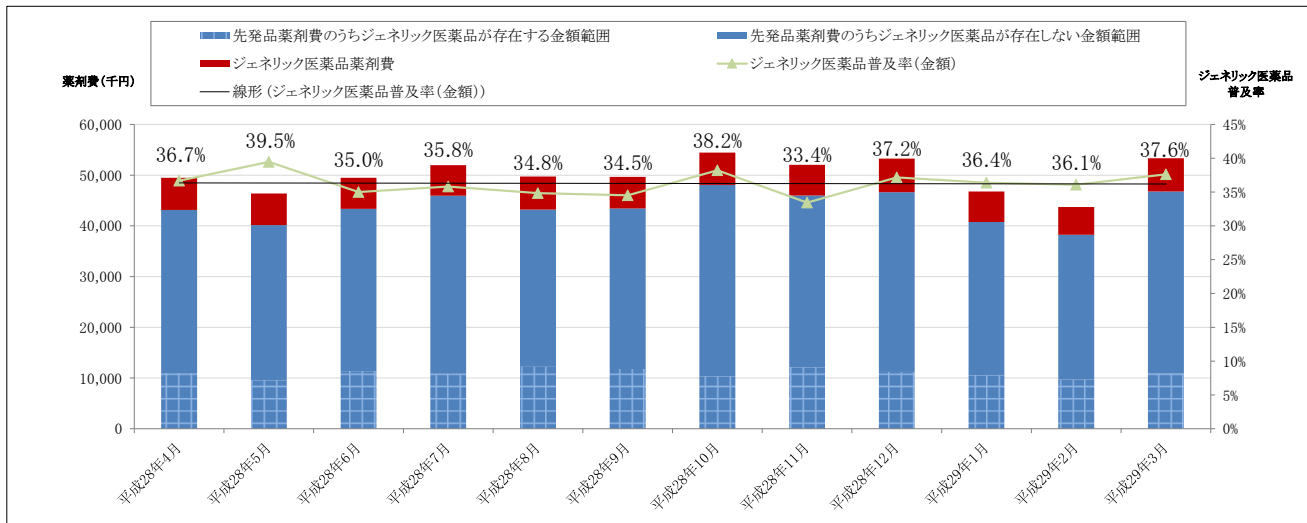
データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。現時点で資格喪失している被保険者についても集計します。緊急透析と思われる患者は除く。

※割合…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

(8) ジェネリック医薬品普及率に係る分析

先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを患者に促し薬剤費の削減を図ります。ジェネリック医薬品への切り替えは複数の疾病に対して行うことができるため、多くの患者に対してアプローチできる利点があります。

ジェネリック医薬品普及率(金額ベース) (平成28年度)



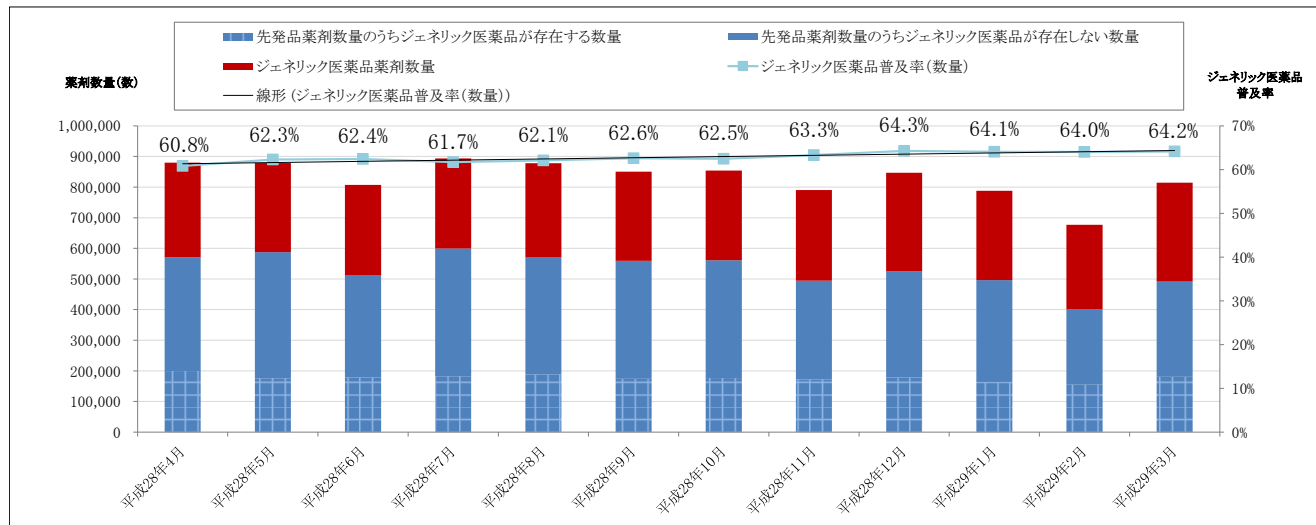
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)

ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) (平成28年度)



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

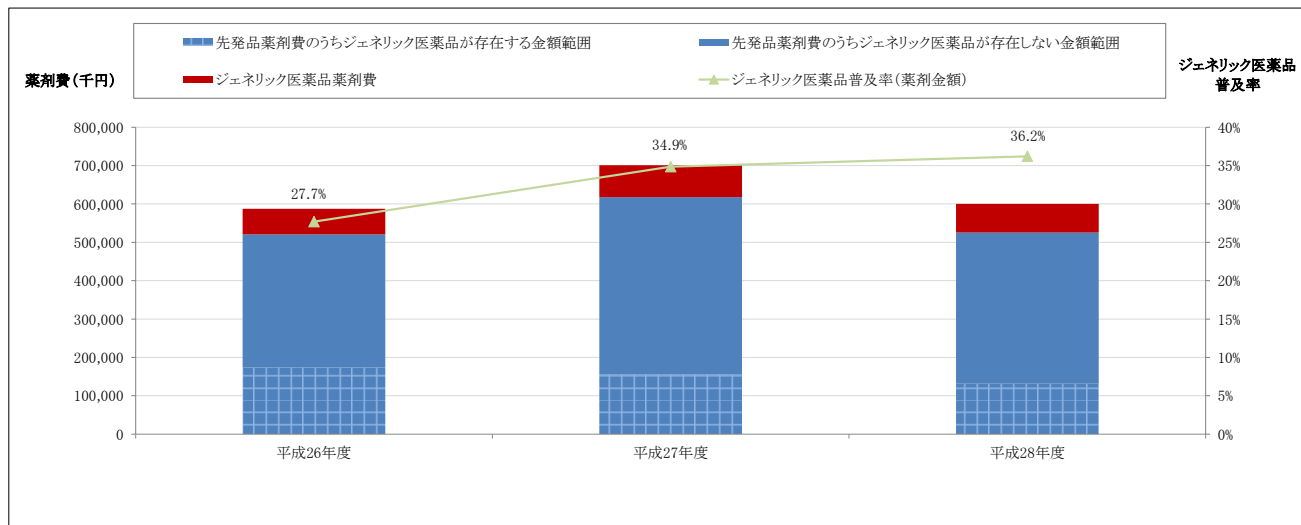
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)

平成28年度ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)36.2%は、平成26年度27.7%より8.5ポイント上昇しており、平成28年度ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)62.8%は、平成26年度47.9%より14.9ポイント上昇しています。

年度別 ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)

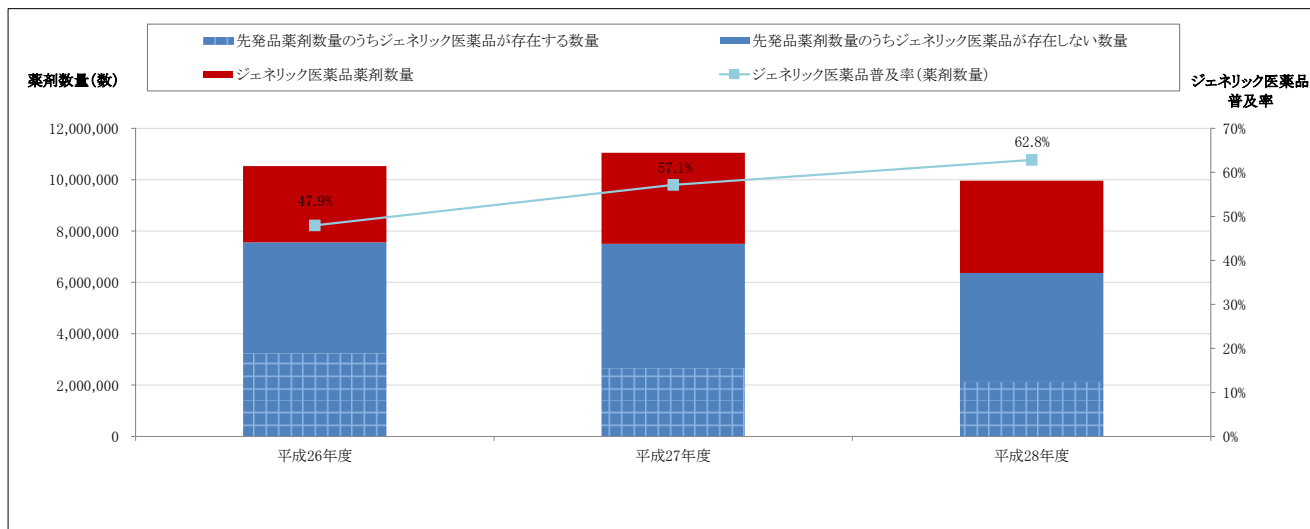


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)

年度別 ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成26年4月～平成29年3月診療分(36カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)

1. 第1期データヘルス計画の考察

(1) 特定健診の未受診者対策

特定健診受診率は、平成26年度より上昇していますが、県や国より低い状況であり、目標には達していない状況です。特に、40～50歳代の受診率が低い状況であったため、まちかど健康相談での受診啓発及び学校、スーパー、イベント会場でのチラシの配布等、受診啓発を強化し、周知を図るとともに、40～50歳代の未受診者や前年度受診者で今年度未受診者に対しても、電話での個別勧奨を実施し、受診率の向上に努めました。

また、継続受診の必要性を啓発するため、集団健診受診者全員に結果説明会の案内を送付し、参加者には個人にあった栄養指導・運動指導を行いました。

引き続き、健診受診や継続受診の必要性を啓発しながらインセンティブを活用し、若年層の受診率向上を図る必要があります。

(2) 特定保健指導の利用勧奨

特定保健指導実施率に関しては、県や国の平均よりも高く上昇しておりますが、利用者は、3人に1人と少ない状況です。

特定保健指導未利用者に対しては、全員に電話による利用勧奨を実施しており、日中不在者が多い中、夕方での連絡や健診時に携帯電話番号を聞くなど、保健指導の利用につなげていけるよう取り組みました。利用啓発に工夫をし、特定保健指導の必要性を周知するとともに、集団教室参加者には、計測の実施や粗品の提供などのインセンティブを活用し、利用に結びつくような取り組みも必要です。さらに、今後は個別健診受診者に対する利用勧奨も強化します。

(3) 生活習慣病予防事業

特定健診の結果や医療費の状況から、白浜町は「糖尿病」に重点を置いた対策を講じており、「糖尿病予防教室」「腎臓病予防教室」を実施しています。

糖尿病・腎臓病予防教室の参加者に関しては、生活習慣の見直しや受診など行動変容、翌年度の検査結果における改善傾向と一定の効果はみられますが、教室参加率は、目標値に達しておらず、より多く参加できるよう教室の運営や日時等を検討していく必要があります。また、透析導入患者の原疾患は糖尿病性腎症が最も多く、医療費全体からみても大きな課題であるため、今後、糖尿病性腎症等の重症化予防に重点を置いた対策も必要です。

このような現状を踏まえ、特定保健指導の対象にはならないが、血圧・血糖・腎機能の検査項目の基準値を超える健診受診者に対しても、引き続き文書による受診勧奨及び保健指導を行い、適切な医療受診につながるよう支援し予防に努めます。

2. 保健事業の振り返り

事業名	事業目的	事業内容	目標値 (平成29年度末)
特定健診	メタボに着目し、内臓脂肪の蓄積を把握することにより、糖尿病、高血圧症、脂質異常症等の生活習慣病を予防する。	年度当初に、40～74歳までの国民健康保険加入者全員に個別通知を送付する。町内の会場で集団健診を実施し、町内外の医療機関において個別健診の委託をする。	受診率：35% 平成26年度：30.2%
特定健診未受診者勧奨	特定健診受診率を向上させる。	特定健診未受診者を対象に保健師による訪問及び電話による受診勧奨を行う。 集団健診前に、前年度受診者のうち今年度未受診者を対象に電話による受診勧奨をする。40歳・50歳を対象に電話による受診勧奨をする。	受診率4ポイント増 (受診率：35%)
結果説明と情報提供	特定健診受診者に結果を説明するとともに、栄養指導や運動指導を行い、健康意識を高め、翌年度の受診につなげる。	集団健診での特定健診受診者全員に案内通知を送付する。 健診結果説明会では、個人にあった栄養指導や生活習慣病予防につながるよう運動指導を行い、継続受診の必要性を説明する。	参加者の増加 継続受診者の増加
特定保健指導	保健指導対象者に対して、面談等による生活改善の支援を行うことにより、生活習慣や検査値を改善させる。	保健師および栄養士による集団指導や個別面談を半年間行い、目標を設定し評価を行う。 集団健診での対象者には、町保健師及び栄養サポート紀南の栄養士が個別やグループ面談を実施する。 個別健診・人間ドックでの対象者には、白浜はまゆう病院に指導事業を委託する。	実施率：25% 平成26年度：17.0%
特定健診異常値放置者受診勧奨事業	特定健診での異常値を放置している対象者に医療機関受診を促し、生活習慣病の予防および重症化予防を図る。	特定健診の結果に異常値があるにも関わらず、医療機関受診が確認できていない対象者を特定し、保健師が電話や訪問で未受診の理由や異常値に対する認識を聞き取るとともに医療機関での受診を勧める。	健診異常値放置者を減少させる。
生活習慣病治療中断者受診勧奨事業	生活習慣病治療中断者の受診行動を支援し、適切な治療再開につなげることによって生活習慣病の重症化を予防する。	レセプト情報から生活習慣病の治療を受けていた者のうち、一定期間の医療機関受診が確認できず、治療を中断している可能性のある対象者を特定し、保健師が電話や訪問で未受診の理由や異常値に対する認識を聞き取るとともに医療機関での受診を勧める。	生活習慣病治療中断者を減少させる。

実績(平成28年度末)	達成状況(平成28年度時点)	評価
特定健診案内送付数：5,422人 集団健診：14回実施 個別健診委託医療機関：31ヶ所	平成28年度受診率：31.4% 平成27年度受診率：30.5%	個人通知の案内チラシや新聞への折込チラシを見やすくした結果、特定健診受診率は1.4ポイント向上したが、目標には届かなかった。引き続き、健診の必要性を啓発する必要がある。
電話受診勧奨：1,441件 集団健診申込：120件 訪問受診勧奨：181件 集団健診申込：19件	平成28年度受診率：31.4% 平成27年度受診率：30.5%	未受診者を対象とした電話勧奨等を行った結果、特定健診受診率は1.4ポイント向上したが、目標には届かなかった。引き続き、健診の必要性を啓発する必要がある。
集団健診受診者：641人 結果説明会参加者：484人	平成28年度 説明会参加者：484人 参加率：75.5% 平成27年度 説明会参加者：467人 参加率：73.9% 平成27・28年度 継続健診受診者：445人	結果説明会参加率は、1.6ポイント向上した。引き続き、継続して健診を受診する習慣づけを促す。
動機づけ支援対象者：133人 実施者：51人 積極的支援対象者：53人 実施者：10人	平成28年度実施率：32.8% 平成27年度実施率：27.1%	特定保健指導実施率は、目標値を上回り5.7ポイント向上した。引き続き、特定保健指導の必要性を啓発する。
健診異常値放置受診勧奨対象者：124人 資格喪失：11人 レセプト情報等で改善等状況確認できた者：33人 電話や訪問で状況確認及び指導した者：59人 連絡がとれない者：21人	平成28年度 電話や訪問で状況確認及び指導：59人 平成27年度 事業未実施	特定健診情報から、1年分まとめて対象者を抽出したため、連絡がとれた段階ではすでに医療機関で治療中や数値が改善している等の場合が多かった。
生活習慣病治療中断者：37人 資格喪失等：9人 レセプト情報等で改善等状況確認できた者：16人 電話や訪問で状況確認及び指導した者：9人 連絡がとれない者：3人	平成28年度 電話や訪問で状況確認及び指導：9人 平成27年度 事業未実施	レセプト情報から、1年分まとめて対象者を抽出したため、連絡がとれた段階ではすでに医療機関で治療中や数値が改善している等の場合が多かった。

事業名	事業目的	事業内容	目標値 (平成29年度末)
栄養教室	生活習慣病の予防や健康に関する正しい知識の普及により、住民自らが健康に関心を持ち、生活習慣を改善し、健康の保持増進に取り組む。	生活習慣病予防や健康に関する教室を実施する。 特定健診受診者で検査値が異常値である場合は個別通知し、特定保健指導対象者には指導時に呼びかけや通知を行う。	参加者の増加 検査値の改善 平成26年度：延89人
まちかど健康相談	身近に健康に関する相談ができる場をつくることによって、住民自らが健康に関心を持ち、生活習慣を改善し、健康の保持増進に取り組む。	スーパー、小・中学校、イベント会場で、健康相談を実施する。	20～50歳代の参加率：35% 平成26年度：25.6%
健康づくり講演会	生活習慣病の予防や身近な疾病等をテーマに講演会を実施することで、住民自らが健康に関心を持ち、生活習慣を改善し、健康の保持増進に取り組む。	各種団体の依頼を受け、集会所や公民館等で医師・薬剤師・理学療法士・栄養士等を講師として健康講演会を実施する。講演後、健康意識に関するアンケートを実施する。	講演会の参加により、健康意識が高まった人の割合を増やす。
大腸がん検診受診勧奨	大腸がん検診の受診率を向上させる。	年度当初に、40～74歳の住民を対象にがん検診案内通知を送付する。 40歳の国民健康保険加入者全員に、電話による受診勧奨をする。	受診率：18% 平成26年度：16.0%
歩く歩くウォーキング事業	効果的なウォーキング方法を身につけ、自らの健康を考えて自主的に運動することで、健康を維持・増進し生活習慣病を予防する。	ウォーキングに関する講座、ウォーキング大会等を開催する。	新規参加率：40% 平成26年度：29.0%
ジェネリック医薬品利用勧奨	ジェネリック医薬品の利用促進により医療費を抑制する。	ジェネリック医薬品に切り替えた場合の自己負担軽減の通知を年2回行う。	数量ベース普及率の60% 平成26年度：40.6%

実績(平成28年度末)	達成状況(平成28年度時点)	評価
会場：3ヶ所 各3回 参加者：延80人 (実人数：33人)	平成28年度 参加者：延80人(実人数：33人) 平成27年度 参加者：延91人(実人数：40人) 平成27・28年度 継続健診受診者：12人 検査数値が改善した者：7人	教室参加者は減っているが、平成29年度からアンケートを開始し、健康に対する意識の変化を確認する。引き続き、生活習慣改善を促すため、教室参加を啓発する。
会場：8ヶ所 参加者：633人	平成28年度 20～50歳代の参加者：110人 20～50歳代の参加率：17.4% 平成27年度 20～50歳代の参加者：213人 20～50歳代の参加率：33.8%	健康相談日に雨が多く、開催できない日があったため、参加者が減少した。また、小学校での相談日が開催できなかったため、20～50歳代の参加率も減少した。引き続き、若年層への生活習慣の改善と健診の必要性を啓発する必要がある。
会場：14ヶ所 参加者：359人 アンケート回収人数：285人 うち健康意識が高まった人数：222人	平成28年度 健康意識が高まった割合：77.8% 平成27年度 アンケート未実施	平成28年度からアンケートを開始したため、健康意識が高まった割合の比較はできないが、約80%が健康意識が高まったと答えていることから、引き続き講演会を開催する。
がん検診受診案内通知者：10,981人 がん検診受診勧奨通知者：8,757人 電話勧奨者：69人 うち通話人数：49人	平成28年度 受診率：10.3% 平成27年度 受診率算出方法の変更	保健センターや巡回バスで大腸がん検診検査セットを回収できるようにしたが、目標には届かなかった。引き続き、広報・パンフレットを工夫して受診率を向上させる。
ウォーキング講座参加者：71人 ストレッチ講座参加者：45人 ウォーキング大会参加者：195人	平成28年度 新規参加者：84人 参加率：27.0% 平成27年度 新規参加者：77人 参加率：23.1%	大会のウォーキングコースを新規コースにしたため、新規参加者が3.9ポイント増加した。引き続き、魅力ある新規コースを開拓して新規参加者を増加させる。
ジェネリック医薬品差額通知数：735通	平成28年度 普及率：62.8% 平成27年度 普及率：57.1% (医療費分解技術を用いたレセプト分析による集計)	ジェネリック医薬品差額通知を2ヶ月に1回送付しており、普及率は5.8ポイント向上した。引き続き、ジェネリック医薬品は、医療費抑制の効果があることを啓発する必要がある。

第4章 健康課題と目的・目標の設定

1. 現状分析と健康課題

現状分析のまとめ	
医療費データ	<ul style="list-style-type: none">・1人当たりの医療費は、年々増加傾向で、1件当たりの医療費も年々増加傾向である。(P. 7)・疾病別医療費では、高血圧症の割合が最も高く、次いで腎不全、糖尿病、脂質異常症の順で高い状況にある。また、直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物も患者一人当たりの医療費が高額となっている。(P. 29～P. 30)・透析患者のうち、糖尿病を起因として透析となる糖尿病性腎症Ⅱ型糖尿病である者は36.4%と多い状況である。(P. 35)
健診データ	<ul style="list-style-type: none">・特定健診受診率(31.9%)は、年々上昇しているが、県や国と比べると低率である。また、男性は女性に比べ受診率が低くなっており、特に、40～50歳代の受診率が低くなっている。(P. 8～P. 9)・健診有所見率では、LDLコレステロール(54.4%)の割合が最も高く、次いで、収縮期血圧(49.2%)、HbA1c(44.0%)の順に高く、これらの項目は50歳代から高くなっている。また、血糖(33.0%)、尿酸(11.2%)、拡張期血圧(22.6%)については、県や国より高い状況にある。(P. 13、P. 16)・特定健診の結果から、メタボ該当者の割合は14.6%(男性25.1%、女性6.9%)、予備群の割合は10.1%(男性16.8%、女性5.3%)となっている。(P. 10～P. 11) 健診受診者の4人に1人がメタボ該当者及び予備群であり、特定保健指導対象者185人のうち血糖・血圧・脂質のリスク3因子を保有している者は28人という状況である。(P. 33～P. 34)・特定保健指導実施率は33.5%で、前年度より上昇しているが、利用者は3人に1人と少ない状況である。(P. 12)・特定健診質問票の生活習慣の状況では、1日30分以上運動習慣のなしが59.8%、毎日飲酒するが28.6%、改善するつもりなしが33.0%と高い割合になっている。(P. 32)
その他データ	<ul style="list-style-type: none">・介護認定率(20.3%)は、国や県と比べると低くなっているが、同規模と比べると高くなっている。(P. 17) 介護認定理由については、がんが最も多く、次いで脳血管疾患、認知症、パーキンソン病の順になっている。(P. 17)・死因の状況は、悪性新生物(24.8%)が最も多く、次いで心疾患(19.0%)、脳血管疾患(9.5%)の順に多くなっている。(P. 22)・新生物の部位別レセプト件数では、結腸と直腸を合わせた件数が最も多いが、大腸がん検診受診率は10.2%と低い状況である。(P. 19～P. 21)

健 康 課 題

○医療費は年々増加傾向にあり、生活習慣病である高血圧症、腎不全、糖尿病等の医療費が高い状況であるが、特定健診受診率は、31.9%と低い。

また、年代別の特定健診受診率では、40～50歳代の受診率が低いため、重点的にこの年代の健康意識を高め、健診受診を習慣づけるため勧奨方法を工夫し、受診率を向上させる必要がある。

○生活習慣病である高血圧症、腎不全、糖尿病等の医療費が高く、透析患者の36.4%が糖尿病性腎症Ⅱ型糖尿病であることから、糖尿病腎症のリスクの高い者に対して保健指導を行い、重症化を予防する必要がある。

○メタボ該当者の割合は14.6%（男性25.1%、女性6.9%）予備群の割合は10.1%（男性16.8%、女性5.3%）となっており、血糖・血圧・脂質のリスク3因子の保有割合が高い。特定保健指導実施率は33.5%と低いため、生活習慣改善に取り組めるよう実施率を向上させる必要がある。

健診結果より、LDLコレステロール、収縮期血圧、HbA1cの健診有所見率が高く、生活習慣の状況では、1日30分以上運動習慣なし、毎日飲酒する、改善するつもりなしの割合が高いことから、生活習慣改善に取り組めるよう食事や運動指導を行う必要がある。

○死因では悪性新生物が最も多く、レセプト件数では大腸がんが多い状況であるが大腸がん検診の受診率が低い。早期発見、早期治療につなげるため、大腸がん検診受診率を向上させる必要がある。

2. 目的と目標の設定

(1) 目的

被保険者が自らの健康に関心を持ち、自主的に特定健診を継続受診することで、健康状態を把握し、自己管理を行うとともに生活習慣の改善を図り、疾病予防についての知識を高め、健康の維持増進に取り組むことを目的とする。

(2) 目標

①特定健診受診率向上

生活習慣病予防のため、自主的に特定健診を継続受診し、健康の維持増進に取り組めるように、特定健診未受診者勧奨の強化に努める。特に40～50歳代への受診勧奨を強化し、継続受診につなげるとともに、受診率を向上させる。

②糖尿病腎症重症化予防

特定健診の結果から、糖尿病腎症のリスクの高い対象者を抽出し、保健指導を実施することで重症化を予防する。

③特定保健指導実施率向上

生活習慣病予防のため、特定保健指導対象者への利用勧奨を強化し、特定保健指導の実施率を向上させる。

④生活習慣の改善

生活習慣病予防のため、食事や運動指導を行うことにより生活習慣の改善に取り組む者を増やす。

⑤大腸がん検診受診率向上

大腸がん予防・早期発見のため、大腸がん検診受診率を向上させる。

1. 第2期データヘルス計画＜平成30（2018）～平成35（2023）年度＞

第1期データヘルス計画において重点的に実施してきた保健事業を踏襲しながら、データ分析から見えてきた課題に基づき、課題を解決するための保健事業を実施する。変更点としては、第2期データヘルス計画では、重症化予防事業を最優先課題として被保険者の健康づくり支援を行う。

2. 具体的な保健事業

(1) 特定健診未受診者対策

①目標

特定健診未受診者への受診勧奨を強化し、特に40～50歳代への受診勧奨方法はインセンティブ等を活用する等の工夫する。また、医師会との連携を図ることで受診率を上昇させる。

②事業内容

- ・ 不定期受診者や未受診者を対象に、対象者に適した受診勧奨メッセージによる個別通知を行う。個別通知後、電話による受診勧奨をする。
- ・ 集団健診前に、前年度受診者のうち今年度未受診者を対象に電話による受診勧奨をする。若年層を対象に電話による受診勧奨をする。
- ・ 集団特定健診受診者に結果説明会の案内を送付し、説明会では、個人にあった栄養指導や運動指導を行い、翌年度の受診につなげる。
- ・ 40～50歳代への特定健診を受診するきっかけとして、特定健診受診者や情報提供者の中から抽選で景品を贈呈する。
- ・ 医師会に委託し、医療機関で治療中の特定健診未受診者のうち、情報提供同意者を対象に医療機関から特定健診の必須項目と総合判定の情報提供を受ける。

(2) 糖尿病腎症重症化予防事業

①目標

生活習慣病である糖尿病性腎症の重症化予防のため、対象者の抽出基準を定め、かかりつけ医と連携して対象者に約6か月間の保健指導を行い、プログラムを終了するように努める。

②事業内容

- ・ 特定健診の結果、空腹時血糖126mg/dl（随時血糖200mg/dl）以上またはHbA1c（NGSP）6.5%以上の該当者のうち、未治療者や糖尿病の治療を開始者について、受診勧奨および保健指導への参加を推奨する。
- ・ 町内の医療機関との連携により、治療中の者へ事業参加を働きかける。
- ・ 保健指導は、約6か月間（面接4回、電話6回）実施する。

(3) 特定保健指導未利用者対策

①目標

特定保健指導対象者への利用勧奨を強化し、実施率を上昇させる。

②事業内容

特定保健指導対象者（積極的支援・動機づけ支援）全員に文書と電話で利用勧奨を行う。それでも利用しない者には、生活習慣のポイント等を記載したパンフレットを送付して再勧奨を行う。

(4) 健康づくり支援

①目標

食事や運動指導を行うことにより生活習慣の改善に取り組む者を増やす。

②事業内容

○ウォーキング事業

- ・20歳以上の住民を対象に、効果的なウォーキング方法を身につけ、自主的に運動することを習慣づけるため、ウォーキング大会を開催する。
- ・希望者には歩数データ登録を行い、歩数記録表を配布する。ウォーキングの継続意欲が高まるよう、インセンティブ事業を行う。

○まちかど健康相談

スーパー、イベント会場、小中学校での運動会等で、保健師、栄養士、理学療法士等が食生活の改善指導や運動指導を行う。

○栄養教室の開催

40歳以上の住民を対象に、糖尿病腎症重症化予防事業の対象に至らない者について、生活習慣病予防のため栄養指導や運動指導を行う。

○健康づくり講演会

各種団体を対象に、集会所、小学校等で参加者が希望する健康に関する講演会を実施し、食生活の改善指導や運動指導を行う。

(5) 大腸がん検診未受診者対策

①目標

検診を受診しやすい環境を整え、大腸がん検診の受診率を上昇させる。

②事業内容

- ・40～74歳の住民を対象にがん検診の案内を送付し、若年層には電話で受診勧奨をする。
- ・40～69歳のがん検診未受診者を対象に受診勧奨の文書を送付する。
- ・巡回バスや保健センターで大腸がん検診検査セットの回収を行う。

3. 保健事業の評価

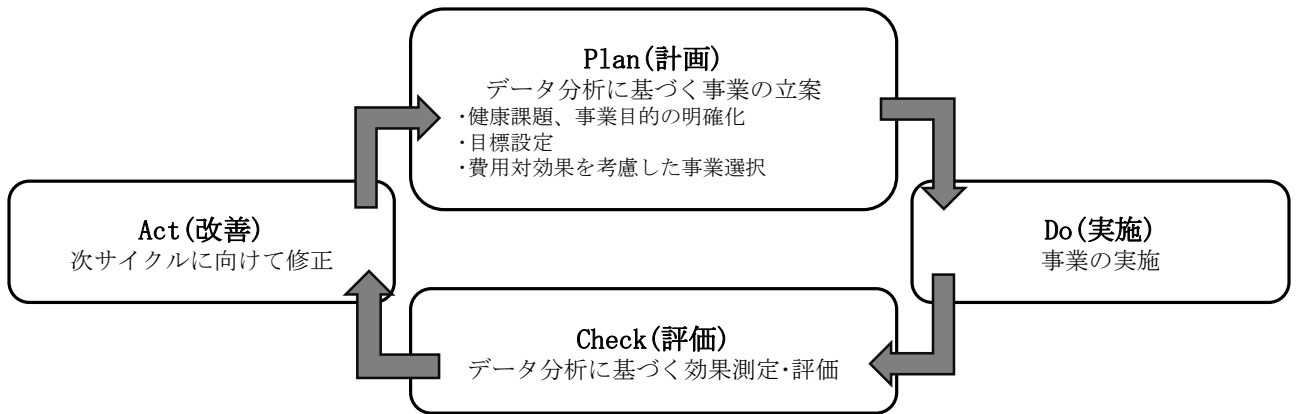
保健事業	実施目標（アウトプット）			成果目標（アウトカム）		
	指標			指標		
	継続は現状値 （平成28年度）	目標値		継続は現状値 （平成28年度）	目標値	
平成32年度 （2020）		平成35年度 （2023）	新規は目標値 （平成30年度）		平成32年度 （2020）	平成35年度 （2023）
特定健診 未受診者対策	前年度受診者のうち今年度未受診者への電話 勧奨通話率			特定健診受診率		
	69.1%	72%	75%	31.9%	36%	39%
	健診受診歴がある者への個別通知後の電話勧 奨通話率（新規）					
	40%	43%	46%			
	40・41・50歳への電話勧奨通話率					
58.0%	62%	65%				
糖尿病腎症 重症化予防事業	糖尿病腎症のリスクの高い対象者への利用勧 奨（新規）			保健指導プログラム実施率（新規）		
	100%	100%	100%	50%	60%	70%
特定保健指導 未利用者対策	特定保健指導対象者への個別通知後の電話勧 奨通話率（新規）			特定保健指導実施率		
	60%	65%	70%	33.9%	37%	40%
健康づくり支援	ウォーキング事業参加者のうち新規参加者の 割合			①1日30分以上運動習慣なしの割合		
	27.0%	30%	33%	60.0%	55%	50%
	まちかど健康相談参加者のうち20～50歳代の 参加者の割合			②毎日飲酒する者の割合		
	17.4%	30%	33%	35.2%	33%	30%
	栄養教室への参加者数			③改善するつもりなしの割合		
	80人	90人	100人	33.0%	31%	28%
	小中学校保護者団体等での健康づくり講演会 開催場所数			健康意識が高まった者の割合		
1ヶ所	2ヶ所	3ヶ所	77.8%	82%	85%	
大腸がん検診 未受診者対策	40・41・50歳の国保加入者への電話勧奨通話率			大腸がん検診受診率		
	58.0%	62%	65%	10.3%	14%	17%

1. データヘルス計画の見直し

(1) 評価

本計画の目的及び目標の達成状況については、毎年度評価を行うこととします。計画の中間時点においては進捗確認・中間評価を行い、必要に応じて実施体制・目標値等の見直しを行います。最終年度においては、次期計画策定を円滑に行うため、上半期に仮評価を行うこととします。

評価・見直しにあたっては、和歌山県国民健康保険団体連合会に設置されている「保健事業支援・評価委員会」に指導・助言を受けるものとします。



(2) 評価時期

本計画の評価については、各事業のスケジュールに基づき実施します。

2. 計画の公表・周知

本計画は、広報、ホームページ等で公表します。

3. 個人情報の取り扱い

個人情報の取り扱いについては、「個人情報の保護に関する法律」「個人情報保護条例」「情報セキュリティポリシー」に基づき管理します。また、業務を外部に委託する際も同様に取られるよう委託契約書に定めるものとします。

4. 地域包括ケアに係る取組及びその他の留意事項

高齢化の状況、地理的条件など、地域のおかれた現状によって必要とされる保健事業や対策も異なると考えられることから、地域包括ケアの充実を図り、地域の実態把握・課題分析を被保険者も含めた関係者間で共有し、連携して事業に取り組みます。

【参考資料】

中分類による疾病別医療費統計(全項目)

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	2,051,231,790	84,805	6,287

疾病分類	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	52,435,582	2.6%		6,211	7.3%		1,788	28.4%		29,326	
0101 腸管感染症	3,431,917	0.2%	83	1,274	1.5%	54	556	8.8%	35	6,173	108
0102 結核	779,086	0.0%	104	149	0.2%	101	61	1.0%	92	12,772	90
0103 主として性的伝播様式をとる感染症	326,397	0.0%	114	199	0.2%	97	105	1.7%	86	3,109	118
0104 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	4,236,391	0.2%	80	889	1.0%	63	285	4.5%	56	14,865	83
0105 ウイルス性肝炎	19,740,016	1.0%	32	1,000	1.2%	57	245	3.9%	60	80,571	24
0106 その他のウイルス性疾患	5,800,884	0.3%	69	202	0.2%	96	85	1.4%	89	68,246	30
0107 真菌症	6,502,621	0.3%	66	1,604	1.9%	46	479	7.6%	39	13,575	87
0108 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	9,651	0.0%	118	20	0.0%	115	5	0.1%	117	1,930	121
0109 その他の感染症及び寄生虫症	11,608,619	0.6%	50	1,425	1.7%	51	505	8.0%	38	22,987	70
II. 新生物<腫瘍>	323,642,025	15.8%		7,688	9.1%		2,013	32.0%		160,776	
0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	19,996,081	1.0%	31	883	1.0%	64	301	4.8%	49	66,432	34
0202 結腸の悪性新生物<腫瘍>	38,483,154	1.9%	14	1,502	1.8%	48	575	9.1%	34	66,927	33
0203 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	20,022,743	1.0%	30	310	0.4%	92	44	0.7%	99	455,062	4
0204 肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	8,103,970	0.4%	60	391	0.5%	88	129	2.1%	81	62,821	36
0205 気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	65,371,992	3.2%	9	781	0.9%	68	182	2.9%	67	359,187	7
0206 乳房の悪性新生物<腫瘍>	16,306,180	0.8%	39	470	0.6%	81	84	1.3%	90	194,121	11
0207 子宮の悪性新生物<腫瘍>	2,546,615	0.1%	86	379	0.4%	89	210	3.3%	63	12,127	93
0208 悪性リンパ腫	6,028,967	0.3%	68	168	0.2%	98	53	0.8%	94	113,754	16
0209 白血病	8,327,193	0.4%	58	77	0.1%	109	22	0.3%	107	378,509	5
0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	110,596,899	5.4%	1	3,574	4.2%	23	1,047	16.7%	15	105,632	18
0211 良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	27,858,231	1.4%	21	1,831	2.2%	44	766	12.2%	26	36,368	55
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	59,089,106	2.9%		1,874	2.2%		528	8.4%		111,911	
0301 貧血	52,597,890	2.6%	11	1,214	1.4%	55	323	5.1%	48	162,842	14
0302 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6,491,216	0.3%	67	781	0.9%	68	268	4.3%	57	24,221	68
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	172,809,037	8.4%		29,137	34.4%		2,917	46.4%		59,242	
0401 甲状腺障害	10,249,360	0.5%	56	2,372	2.8%	37	607	9.7%	32	16,885	81
0402 糖尿病	88,242,347	4.3%	4	12,466	14.7%	5	1,676	26.7%	4	52,651	40
0403 脂質異常症	58,674,975	2.9%	10	17,695	20.9%	2	1,490	23.7%	9	39,379	53
0404 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	15,642,355	0.8%	40	5,773	6.8%	16	859	13.7%	22	18,210	79
V. 精神及び行動の障害	135,619,802	6.6%		7,373	8.7%		791	12.6%		171,454	
0501 血管性及び詳細不明の認知症	1,966,903	0.1%	92	65	0.1%	110	20	0.3%	109	98,345	19
0502 精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1,981,787	0.1%	91	168	0.2%	98	28	0.4%	106	70,778	28
0503 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	79,434,792	3.9%	6	2,519	3.0%	35	220	3.5%	61	361,067	6

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	2,051,231,790	84,805	6,287

疾病分類		医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
0504	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	31,683,092	1.5%	19	3,193	3.8%	26	291	4.6%	53	108,877	17
0505	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	7,285,500	0.4%	64	3,061	3.6%	27	400	6.4%	45	18,214	78
0506	知的障害<精神遅滞>	1,896,908	0.1%	94	112	0.1%	105	38	0.6%	103	49,919	41
0507	その他の精神及び行動の障害	11,370,820	0.6%	51	878	1.0%	65	117	1.9%	82	97,186	20
VI. 神経系の疾患		140,821,693	6.9%		14,826	17.5%		1,556	24.7%		90,502	
0601	パーキンソン病	20,576,543	1.0%	29	773	0.9%	70	59	0.9%	93	348,755	8
0602	アルツハイマー病	5,564,132	0.3%	71	444	0.5%	82	43	0.7%	100	129,398	15
0603	てんかん	12,947,916	0.6%	49	1,522	1.8%	47	163	2.6%	73	79,435	26
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	14,432,521	0.7%	42	165	0.2%	100	21	0.3%	108	687,263	3
0605	自律神経系の障害	8,497,698	0.4%	57	305	0.4%	93	50	0.8%	97	169,954	13
0606	その他の神経系の疾患	78,802,883	3.8%	7	12,899	15.2%	4	1,398	22.2%	10	56,368	37
VII. 眼及び付属器の疾患		73,404,655	3.6%		9,297	11.0%		2,225	35.4%		32,991	
0701	結膜炎	7,009,443	0.3%	65	4,078	4.8%	20	1,045	16.6%	16	6,708	107
0702	白内障	19,175,523	0.9%	33	2,895	3.4%	29	649	10.3%	30	29,546	61
0703	屈折及び調節の障害	7,595,211	0.4%	63	6,899	8.1%	10	1,771	28.2%	3	4,289	114
0704	その他の眼及び付属器の疾患	39,624,478	1.9%	13	6,791	8.0%	11	1,516	24.1%	8	26,138	67
VIII. 耳及び乳様突起の疾患		12,453,463	0.6%		2,073	2.4%		610	9.7%		20,416	
0801	外耳炎	766,937	0.0%	105	492	0.6%	78	170	2.7%	72	4,511	113
0802	その他の外耳疾患	765,091	0.0%	106	399	0.5%	87	202	3.2%	65	3,788	116
0803	中耳炎	4,320,506	0.2%	78	637	0.8%	75	162	2.6%	74	26,670	65
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	1,392,811	0.1%	100	139	0.2%	104	49	0.8%	98	28,425	62
0805	メニエール病	1,273,803	0.1%	101	236	0.3%	95	34	0.5%	105	37,465	54
0806	その他の内耳疾患	2,243,857	0.1%	88	359	0.4%	90	117	1.9%	82	19,178	76
0807	その他の耳疾患	1,690,458	0.1%	96	479	0.6%	79	173	2.8%	70	9,771	100
IX. 循環器系の疾患		334,840,214	16.3%		33,393	39.4%		2,933	46.7%		114,163	
0901	高血圧性疾患	102,289,907	5.0%	2	27,878	32.9%	1	2,278	36.2%	1	44,903	49
0902	虚血性心疾患	27,181,917	1.3%	25	6,177	7.3%	15	755	12.0%	27	36,003	56
0903	その他の心疾患	76,106,302	3.7%	8	7,790	9.2%	7	1,012	16.1%	18	75,204	27
0904	くも膜下出血	11,102,386	0.5%	53	38	0.0%	111	14	0.2%	113	793,028	1
0905	脳内出血	27,136,772	1.3%	26	318	0.4%	91	97	1.5%	87	279,761	9
0906	脳梗塞	50,702,367	2.5%	12	2,571	3.0%	33	293	4.7%	52	173,046	12
0907	脳動脈硬化(症)	135,618	0.0%	117	32	0.0%	114	13	0.2%	114	10,432	97
0908	その他の脳血管疾患	17,819,165	0.9%	34	897	1.1%	62	195	3.1%	66	91,380	21
0909	動脈硬化(症)	7,774,800	0.4%	62	914	1.1%	59	171	2.7%	71	45,467	46
0911	低血圧(症)	298,860	0.0%	115	108	0.1%	106	15	0.2%	111	19,924	75
0912	その他の循環器系の疾患	14,292,120	0.7%	43	1,733	2.0%	45	296	4.7%	51	48,284	44
X. 呼吸器系の疾患		106,286,144	5.2%		15,714	18.5%		3,156	50.2%		33,677	
1001	急性鼻咽頭炎[かぜ]<感冒>	1,853,522	0.1%	95	1,399	1.6%	52	628	10.0%	31	2,951	120
1002	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	4,741,126	0.2%	76	2,485	2.9%	36	847	13.5%	24	5,598	111
1003	その他の急性上気道感染症	5,416,205	0.3%	72	2,714	3.2%	30	1,083	17.2%	13	5,001	112

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	2,051,231,790	84,805	6,287

疾病分類		医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
1004	肺炎	14,027,751	0.7%	45	537	0.6%	76	249	4.0%	58	56,336	38
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	4,848,170	0.2%	75	2,091	2.5%	41	853	13.6%	23	5,684	110
1006	アレルギー性鼻炎	13,136,903	0.6%	48	5,082	6.0%	18	1,115	17.7%	11	11,782	94
1007	慢性副鼻腔炎	3,419,384	0.2%	84	1,463	1.7%	49	351	5.6%	46	9,742	101
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	2,394,765	0.1%	87	1,372	1.6%	53	416	6.6%	44	5,757	109
1009	慢性閉塞性肺疾患	11,191,381	0.5%	52	1,833	2.2%	43	249	4.0%	58	44,945	48
1010	喘息	17,641,642	0.9%	35	3,894	4.6%	22	588	9.4%	33	30,003	60
1011	その他の呼吸器系の疾患	27,615,295	1.3%	22	2,566	3.0%	34	1,038	16.5%	17	26,604	66
X I . 消化器系の疾患		157,801,743	7.7%		25,157	29.7%		3,093	49.2%		51,019	
1101	う蝕 ※	7,813	0.0%	120	2	0.0%	120	2	0.0%	119	3,907	115
1102	歯肉炎及び歯周疾患	533	0.0%	122	1	0.0%	121	1	0.0%	120	533	122
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	337,936	0.0%	113	18	0.0%	116	8	0.1%	116	42,242	51
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	17,128,191	0.8%	37	7,051	8.3%	9	972	15.5%	20	17,622	80
1105	胃炎及び十二指腸炎	21,285,635	1.0%	28	9,498	11.2%	6	1,528	24.3%	7	13,930	85
1106	痔核	2,151,598	0.1%	89	676	0.8%	74	157	2.5%	75	13,704	86
1107	アルコール性肝疾患	1,196,347	0.1%	102	404	0.5%	86	53	0.8%	94	22,573	72
1108	慢性肝炎(アルコール性のものを除く)	815,059	0.0%	103	477	0.6%	80	78	1.2%	91	10,449	96
1109	肝硬変(アルコール性のものを除く)	1,444,307	0.1%	98	444	0.5%	82	95	1.5%	88	15,203	82
1110	その他の肝疾患	4,997,065	0.2%	74	2,085	2.5%	42	552	8.8%	37	9,053	105
1111	胆石症及び胆のう炎	13,830,065	0.7%	47	914	1.1%	59	298	4.7%	50	46,410	45
1112	膵疾患	10,956,062	0.5%	54	434	0.5%	84	137	2.2%	78	79,971	25
1113	その他の消化器系の疾患	83,651,132	4.1%	5	14,787	17.4%	3	1,848	29.4%	2	45,266	47
X II . 皮膚及び皮下組織の疾患		34,847,641	1.7%		8,909	10.5%		2,007	31.9%		17,363	
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	2,877,443	0.1%	85	698	0.8%	72	291	4.6%	53	9,888	98
1202	皮膚炎及び湿疹	17,291,868	0.8%	36	6,452	7.6%	14	1,530	24.3%	6	11,302	95
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	14,678,330	0.7%	41	3,947	4.7%	21	1,008	16.0%	19	14,562	84
X III . 筋骨格系及び結合組織の疾患		178,033,841	8.7%		20,918	24.7%		2,572	40.9%		69,220	
1301	炎症性多発性関節障害	28,723,049	1.4%	20	2,982	3.5%	28	429	6.8%	43	66,953	32
1302	関節症	27,210,338	1.3%	24	5,545	6.5%	17	790	12.6%	25	34,443	57
1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	33,494,169	1.6%	17	4,925	5.8%	19	688	10.9%	29	48,683	43
1304	椎間板障害	5,170,734	0.3%	73	695	0.8%	73	130	2.1%	80	39,775	52
1305	頸腕症候群	2,053,567	0.1%	90	1,434	1.7%	50	208	3.3%	64	9,873	99
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	13,876,528	0.7%	46	7,202	8.5%	8	1,052	16.7%	14	13,191	88
1307	その他の脊柱障害	1,630,754	0.1%	97	993	1.2%	58	180	2.9%	69	9,060	104
1308	肩の傷害<損傷>	4,268,695	0.2%	79	2,270	2.7%	38	336	5.3%	47	12,704	91
1309	骨の密度及び構造の障害	27,359,882	1.3%	23	3,509	4.1%	24	431	6.9%	42	63,480	35
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	34,246,125	1.7%	16	6,483	7.6%	13	1,111	17.7%	12	30,825	58

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	2,051,231,790	84,805	6,287

疾病分類	医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患	147,589,307	7.2%		7,230	8.5%		1,441	22.9%		102,421	
1401 糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	8,027,202	0.4%	61	754	0.9%	71	181	2.9%	68	44,349	50
1402 腎不全	94,669,040	4.6%	3	1,210	1.4%	56	134	2.1%	79	706,485	2
1403 尿路結石症	4,439,104	0.2%	77	837	1.0%	66	214	3.4%	62	20,743	73
1404 その他の腎尿路系の疾患	16,355,816	0.8%	38	3,426	4.0%	25	724	11.5%	28	22,591	71
1405 前立腺肥大(症)	14,088,827	0.7%	44	2,151	2.5%	39	288	4.6%	55	48,920	42
1406 その他の男性生殖器系の疾患	441,195	0.0%	111	803	0.9%	67	139	2.2%	77	3,174	117
1407 月経障害及び閉経周辺期障害	1,410,048	0.1%	99	513	0.6%	77	111	1.8%	84	12,703	92
1408 乳房及びその他の女性生殖器系の疾患	8,158,075	0.4%	59	900	1.1%	61	432	6.9%	41	18,884	77
XV. 妊娠、分娩及び産じょく	4,110,002	0.2%		171	0.2%		58	0.9%		70,862	
1501 流産	506,757	0.0%	109	37	0.0%	112	18	0.3%	110	28,153	63
1502 妊娠高血圧症候群	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
1503 単胎自然分娩	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
1504 その他の妊娠、分娩及び産じょく	3,603,245	0.2%	81	145	0.2%	102	51	0.8%	96	70,652	29
XVI. 周産期に発生した病態	1,396,394	0.1%		19	0.0%		12	0.2%		116,366	
1601 妊娠及び胎児発育に関連する障害	640,140	0.0%	108	7	0.0%	118	3	0.0%	118	213,380	10
1602 その他の周産期に発生した病態	756,254	0.0%	107	12	0.0%	117	9	0.1%	115	84,028	22
XVII. 先天奇形、変形及び染色体異常	6,174,557	0.3%		461	0.5%		119	1.9%		51,887	
1701 心臓の先天奇形	456,159	0.0%	110	35	0.0%	113	15	0.2%	111	30,411	59
1702 その他の先天奇形、変形及び染色体異常	5,718,398	0.3%	70	433	0.5%	85	107	1.7%	85	53,443	39
XVIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,112,617	1.6%		6,667	7.9%		1,585	25.2%		20,260	
1800 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	32,112,617	1.6%	18	6,667	7.9%	12	1,585	25.2%	5	20,260	74
XIX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	67,226,946	3.3%		4,578	5.4%		1,368	21.8%		49,143	
1901 骨折	37,069,406	1.8%	15	2,098	2.5%	40	553	8.8%	36	67,033	31
1902 頭蓋内損傷及び内臓の損傷	3,493,734	0.2%	82	103	0.1%	107	43	0.7%	100	81,250	23
1903 熱傷及び腐食	340,255	0.0%	112	94	0.1%	108	35	0.6%	104	9,722	102
1904 中毒	1,911,582	0.1%	93	247	0.3%	94	145	2.3%	76	13,183	89
1905 その他の損傷及びその他の外因の影響	24,411,969	1.2%	27	2,575	3.0%	32	912	14.5%	21	26,768	64
XXI. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	10,266,995	0.5%		2,633	3.1%		439	7.0%		23,387	
2101 検査及び診査のための保健サービスの利用者	9,094	0.0%	119	5	0.0%	119	1	0.0%	120	9,094	103
2102 予防接種	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2103 正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	3,023	0.0%	121	1	0.0%	121	1	0.0%	120	3,023	119
2104 歯の補てつ	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計(円)	レセプト件数 ※	患者数 ※
	2,051,231,790	84,805	6,287

疾病分類		医療費(円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人当たりの医療費(円)	順位
2105	特定の処置(歯の補てつを除外)及び保健ケアのための保健サービスの利用者	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	10,254,878	0.5%	55	2,627	3.1%	31	437	7.0%	40	23,467	69
XXII. 特殊目的用コード		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2210	重症急性呼吸器症候群[SARS]	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
2220	その他の特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	
分類外		270,026	0.0%		145	0.2%		40	0.6%		6,751	
9999	分類外	270,026	0.0%	116	145	0.2%	102	40	0.6%	102	6,751	106

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

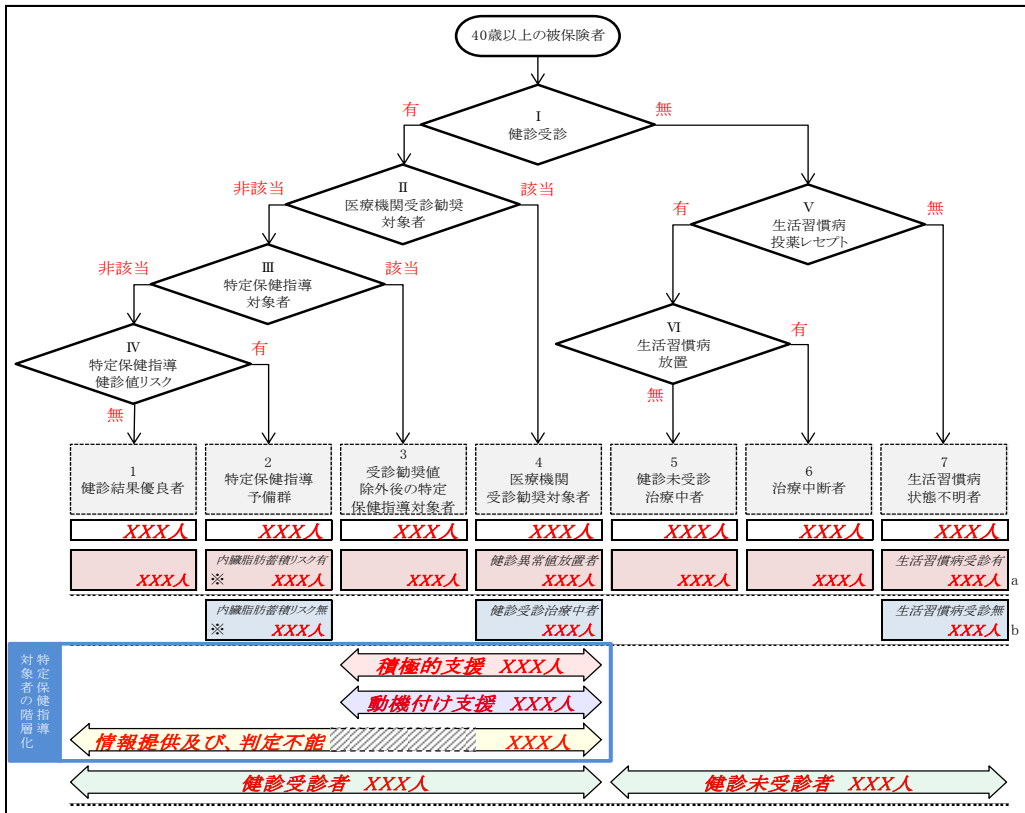
※レセプト件数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※う蝕…「う蝕」等歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方

特定健診及びレセプトデータによる指導対象者群分析



【フロー説明】

- I 健診受診 ……健診受診の有無を判定。
- II 医療機関受診勧奨対象者 ……健診値(血糖、血圧、脂質)のいずれかが、厚生労働省が定めた受診勧奨判定値を超えて受診勧奨対象者に該当するか判定。
- III 特定保健指導対象者 ……厚生労働省が定めた「標準的な健診・保健指導プログラム【改訂版】」に沿って、特定保健指導対象者に該当するか判定。
- IV 特定保健指導健診値リスク ……厚生労働省が定めた保健指導判定値により、健診値(血糖、血圧、脂質)のリスクの有無を判定。判定に喫煙は含めない。
- V 生活習慣病投薬レセプト ……生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に関する、投薬の有無を判定。
- VI 生活習慣病放置 ……生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)を治療している患者で、一定期間の受診状況により生活習慣病放置の有無を判定。

【グループ別説明】

- 健診受診あり
- 1. 健診結果優良者 ……保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しない者。
 - 2. 特定保健指導予備群 ……保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しているが、その他の条件(服薬有り等)により保健指導対象者でない者。
 内臓脂肪蓄積リスク有 ……「2. 特定保健指導予備群」のうち、服薬が有るため特定保健指導対象者にならなかった者。
 内臓脂肪蓄積リスク無 ……「2. 特定保健指導予備群」のうち、内臓脂肪蓄積リスク(腹囲・BMI)がないため特定保健指導対象者にならなかった者。
 - 3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者 ……受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当していない特定保健指導対象者。
 - 4. 医療機関受診勧奨対象者 ……受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当する者。
 健診異常値放置者 ……「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がない者。
 健診受診治療中者 ……「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がある者。または健診受診後生活習慣病に関する医療機関受診はないが、健診受診後間もないため病院受診の意志がない「健診異常値放置者」と判断できない者。
- 健診受診なし
- 5. 健診未受診治療中者 ……生活習慣病治療中の者。
 - 6. 治療中断者 ……過去に生活習慣病の治療をしていたが、生活習慣病に関する医療機関受診が一定期間ない者。
 - 7. 生活習慣病状態不明者 ……生活習慣病の投薬治療をしていない者。
 生活習慣病受診有 ……「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がある者。
 生活習慣病受診無 ……「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がない者。

2. 用語解説集

用語		説明
ア 行	HDLコレステロール	余分なコレステロールを回収して肝臓に運び、動脈硬化を抑える。善玉コレステロール。
	LDLコレステロール	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させます。悪玉コレステロール。
カ 行	空腹時血糖	空腹時に血液中にあるブドウ糖の量を示しています。検査値が高いと糖尿病の疑いがあります。
	血圧(収縮期・拡張期)	血管にかかる圧力のこと。心臓が血液を送り出すときに示す最大血圧を収縮期血圧、全身から戻った血液が心臓にたまっているときに示す最小血圧を拡張期血圧という。
	高齢化率	65歳以上の高齢者が総人口に占める割合。
サ 行	ジェネリック医薬品	先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認され、一般的に研究開発に要する費用が低く抑えられることから、先発医薬品に比べて薬価が安い医薬品。
	疾病分類	「疾病、傷害及び死因の統計分類」の「ICD-10(2013年版)準拠 疾病分類表」を使用。
	腎不全	腎臓の機能が低下し、老廃物を十分排泄できなくなったり、体内に不要なものや体にとって有害なものがたまっている状態。
	積極的支援	特定健診の結果により、生活習慣病の発症リスクがより高い者に対して行われる保健指導。「動機付け支援」の内容に加え、対象者が主体的に生活習慣の改善を継続できるよう、面接、電話等を用いて、3か月以上の定期的・継続的な支援を行います。
タ 行	中性脂肪	体を動かすエネルギー源となる物質ですが、蓄積することにより、肥満の原因になる。
	動機付け支援	特定健診の結果により、生活習慣病の発症リスクが高い者に対して行われる保健指導。医師・保健師・管理栄養士等による個別、またはグループ面接により、対象者に合わせた行動計画の策定と保健指導が行われる。初回の保健指導修了後、対象者は行動計画を実践し、3か月経過後に面接、電話等で結果の確認と評価を行います。
	特定健康診査	平成20年4月から開始された、生活習慣予防のためのメタボリックシンドロームに着目した健康診査のこと。特定健診。40歳～74歳の医療保険加入者を対象とします。
	特定保健指導	特定健診の結果により、生活習慣病の発症リスクが高く、生活改善により生活習慣病の予防効果が期待できる人に対して行う保健指導のこと。特定保健指導対象者の選定方法により「動機付け支援」「積極的支援」に該当した人に対し実施される。
ナ 行	日本再興戦略	日本産業再興プラン・戦略市場創造プラン・国際展開戦略の3つのアクションプランを軸とします。データヘルス計画に関する内容は、戦略市場創造プランの【テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸】の中に「予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり」の一つとして示されている。
ハ 行	HbA1c	ブドウ糖と血液中のヘモグロビンが結びついたもので、過去1～2か月の平均的な血糖の状態を示す検査に使用される。
マ 行	メタボリックシンドローム	内臓脂肪型肥満に高血圧、高血糖、脂質代謝異常が組み合わさり、心臓病や脳卒中などの動脈硬化性疾患を招きやすい状態。内臓脂肪型肥満(内臓肥満・腹部肥満)に加えて、血圧・血糖・脂質の基準のうち2つ以上に該当する状態を「メタボリックシンドローム」、1つのみ該当する状態を「メタボリックシンドローム予備群」という。
ヤ 行	有所見	検査の結果、何らかの異常(検査基準値を上回っている等)が認められたことをいう。
ラ 行	レセプト	診療報酬請求明細書の通称。

3. 疾病分類表(2013年版)

コード	疾病分類	主な疾病		
I. 感染症及び寄生虫症				
0101	腸管感染症	下痢症	急性胃腸炎	感染性胃腸炎
0102	結核	肺結核	結核性胸膜炎	潜在性結核感染症
0103	主として性的伝播様式をとる感染症	梅毒	クラミジア頸管炎	淋病
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	尋常性疣贅	帯状疱疹	単純ヘルペス
0105	ウイルス性肝炎	B型肝炎	C型肝炎	C型慢性肝炎
0106	その他のウイルス性疾患	アデノウイルス感染症	流行性角結膜炎	RSウイルス感染症
0107	真菌症	足白癬	皮膚カンジダ症	爪白癬
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	陳旧性肺結核	肺結核後遺症	小児麻疹後遺症
0109	その他の感染症及び寄生虫症	ヘリコバクター・ピロリ感染症	溶連菌感染症	敗血症
II. 新生物<腫瘍>				
0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	胃癌	早期胃癌	胃体部癌
0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	大腸癌	S状結腸癌	上行結腸癌
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌	直腸S状部結腸癌	直腸癌術後再発
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	肝癌	肝細胞癌	原発性肝癌
0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	肺癌	上葉肺癌	下葉肺癌
0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	乳癌	乳房上外側部乳癌	乳癌再発
0207	子宮の悪性新生物<腫瘍>	子宮体癌	子宮頸癌	子宮癌
0208	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫	非ホジキンリンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
0209	白血病	成人T細胞白血病リンパ腫	白血病	慢性骨髄性白血病
0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌	睪癌	膀胱癌
0211	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	子宮筋腫	脳腫瘍	肺腫瘍
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害				
0301	貧血	鉄欠乏性貧血	貧血	巨赤芽球性貧血
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	播種性血管内凝固	血液凝固異常	血小板減少症
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患				
0401	甲状腺障害	甲状腺機能低下症	甲状腺機能亢進症	甲状腺腫
0402	糖尿病	糖尿病	2型糖尿病	糖尿病網膜症
0403	脂質異常症	高脂血症	高コレステロール血症	脂質異常症
0404	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	脱水症	高尿酸血症	卵巣機能不全
V. 精神及び行動の障害				
0501	血管性及び詳細不明の認知症	認知症	血管性認知症	老年精神病
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	ニコチン依存症	アルコール依存症	急性アルコール中毒
0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症	統合失調症様状態	幻覚妄想状態
0504	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	うつ病	うつ状態	躁うつ病
0505	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	不安神経症	神経症	心身症
0506	知的障害<精神遅滞>	知的障害	軽度知的障害	重度知的障害
0507	その他の精神及び行動の障害	摂食障害	器質性精神障害	せん妄

コード	疾病分類	主な疾病		
VI. 神経系の疾患				
0601	パーキンソン病	パーキンソン症候群	パーキンソン病	パーキンソン病Yahr 3
0602	アルツハイマー病	アルツハイマー型認知症	アルツハイマー病	アルツハイマー型老年認知症
0603	てんかん	てんかん	症候性てんかん	精神運動発作
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	片麻痺	脳性麻痺	不全麻痺
0605	自律神経系の障害	自律神経失調症	神経調節性失神	自律神経障害
0606	その他の神経系の疾患	不眠症	片頭痛	睡眠時無呼吸症候群
VII. 眼及び付属器の疾患				
0701	結膜炎	アレルギー性結膜炎	結膜炎	慢性結膜炎
0702	白内障	白内障	加齢性白内障	後発白内障
0703	屈折及び調節の障害	近視性乱視	遠視性乱視	老視
0704	その他の眼及び付属器の疾患	ドライアイ	緑内障	眼精疲労
VIII. 耳及び乳様突起の疾患				
0801	外耳炎	外耳炎	外耳湿疹	急性外耳炎
0802	その他の外耳疾患	耳垢栓塞	耳介軟骨膜炎	耳瘻孔
0803	中耳炎	滲出性中耳炎	急性中耳炎	中耳炎
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	耳管狭窄症	耳管機能低下	真珠腫性中耳炎
0805	メニエール病	メニエール病	メニエール症候群	内耳性めまい
0806	その他の内耳疾患	良性発作性頭位めまい症	末梢性めまい症	耳性めまい
0807	その他の耳疾患	感音難聴	難聴	耳鳴症
IX. 循環器系の疾患				
0901	高血圧性疾患	高血圧症	本態性高血圧症	高血圧性心疾患
0902	虚血性心疾患	狭心症	急性心筋梗塞	心筋梗塞
0903	その他の心疾患	心不全	不整脈	慢性心不全
0904	くも膜下出血	くも膜下出血	くも膜下出血後遺症	脳動脈瘤破裂
0905	脳内出血	脳出血	脳出血後遺症	視床出血
0906	脳梗塞	脳梗塞	脳梗塞後遺症	多発性脳梗塞
0907	脳動脈硬化（症）	脳動脈硬化症	動脈硬化性脳症	
0908	その他の脳血管疾患	内頸動脈狭窄症	頸動脈硬化症	脳血管障害
0909	動脈硬化（症）	閉塞性動脈硬化症	動脈硬化症	動脈硬化性網膜症
0911	低血圧（症）	起立性低血圧症	低血圧症	起立性調節障害
0912	その他の循環器系の疾患	深部静脈血栓症	末梢循環障害	慢性動脈閉塞症
X. 呼吸器系の疾患				
1001	急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒>	感冒	急性鼻炎	急性鼻咽頭炎
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	咽頭炎	急性咽頭炎	扁桃炎
1003	その他の急性上気道感染症	急性上気道炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎
1004	肺炎	肺炎	急性肺炎	マイコプラズマ肺炎
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性気管支炎	マイコプラズマ気管支炎	クループ性気管支炎

コード	疾病分類	主な疾病		
1006	アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	季節性アレルギー性鼻炎
1007	慢性副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎	副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎急性増悪
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	気管支炎	気管気管支炎	びまん性気管支炎
1009	慢性閉塞性肺疾患	慢性気管支炎	肺気腫	慢性閉塞性肺疾患
1010	喘息	気管支喘息	喘息性気管支炎	気管支喘息発作
1011	その他の呼吸器系の疾患	インフルエンザ	呼吸不全	誤嚥性肺炎
X I. 消化器系の疾患				
1101	う蝕	う蝕	二次う蝕	う蝕第2度
1102	歯肉炎及び歯周疾患	歯周炎	歯肉炎	歯冠周囲炎
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	顎関節症	歯痛	顎関節炎
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	出血性胃潰瘍
1105	胃炎及び十二指腸炎	慢性胃炎	胃炎	急性胃炎
1106	痔核	内痔核	痔核	外痔核
1107	アルコール性肝疾患	アルコール性肝障害	アルコール性肝炎	アルコール性肝硬変
1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）	慢性肝炎	活動性慢性肝炎	慢性肝炎増悪
1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）	肝硬変症	原発性胆汁性肝硬変	非代償性肝硬変
1110	その他の肝疾患	肝機能障害	脂肪肝	肝障害
1111	胆石症及び胆のう炎	胆のう結石症	胆のう炎	総胆管結石
1112	膵疾患	膵炎	急性膵炎	慢性膵炎
1113	その他の消化器系の疾患	便秘症	逆流性食道炎	口内炎
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患				
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	皮膚感染症	蜂窩織炎	膿疱疹性湿疹
1202	皮膚炎及び湿疹	湿疹	皮膚炎	アトピー性皮膚炎
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮脂欠乏症	皮脂欠乏性湿疹	じんま疹
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患				
1301	炎症性多発性関節障害	関節リウマチ	痛風	関節炎
1302	関節症	変形性膝関節症	変形性関節症	変形性股関節症
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	腰部脊柱管狭窄症	変形性腰椎症	頸椎症
1304	椎間板障害	腰椎椎間板症	腰椎椎間板ヘルニア	頸椎椎間板ヘルニア
1305	頸腕症候群	頸肩腕症候群	頸肩腕障害	
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	腰痛症	坐骨神経痛	筋筋膜性腰痛症
1307	その他の脊柱障害	腰椎すべり症	背部痛	頸部痛
1308	肩の傷害<損傷>	肩関節周囲炎	肩関節腱板炎	肩石灰性腱炎
1309	骨の密度及び構造の障害	骨粗鬆症	閉経後骨粗鬆症	脊椎骨粗鬆症
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	筋肉痛	神経痛	関節痛
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患				
1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	腎炎	腎盂腎炎	水腎症
1402	腎不全	慢性腎不全	腎性貧血	腎不全

コード	疾病分類	主な疾病		
1403	尿路結石症	腎結石症	尿管結石症	尿路結石症
1404	その他の腎尿路系の疾患	膀胱炎	腎機能低下	尿路感染症
1405	前立腺肥大（症）	前立腺肥大症	前立腺症	
1406	その他の男性生殖器の疾患	慢性前立腺炎	前立腺炎	亀頭包皮炎
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	更年期症候群	月経困難症	萎縮性膣炎
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	子宮腔部びらん	細菌性膣炎	膣炎
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく				
1501	流産	稽留流産	異所性妊娠	絨毛性疾患
1502	妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症候群	重症妊娠高血圧症候群	子癇
1503	単胎自然分娩	自然頭位分娩	自然分娩	単胎自然分娩
1504	その他の妊娠, 分娩及び産じょく	切迫流産	子宮内感染症	血液型不適合
X VI. 周産期に発生した病態				
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	子宮内胎児発育遅延	低出生体重児	早産児
1602	その他の周産期に発生した病態	新生児黄疸	胎児ジストレス	A B O 因子不適合
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常				
1701	心臓の先天奇形	心房中隔欠損症	心室中隔欠損症	先天性心疾患
1702	その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	足底角化症	角皮症	毛孔性苔癬
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの				
1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	頭痛	嘔吐症	めまい症
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響				
1901	骨折	腰椎圧迫骨折	肋骨骨折	大腿骨頸部骨折
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	脳挫傷	外傷性脳出血	硬膜下血腫
1903	熱傷及び腐食	熱傷	第2度熱傷	手熱傷
1904	中毒	刺虫症	蜂刺症	食中毒
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	打撲傷	結膜異物	捻挫
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用				
2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	検診	健康診断	胃癌検診
2102	予防接種	予防接種		
2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	妊娠	正常妊娠	多産婦
2104	歯の補てつ			
2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者	抜釘	気管切開口に対する手当て	骨髄移植ドナー
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	白内障術後	ペースメーカー植え込み後	人工股関節置換術後
X X II. 特殊目的用コード				
2210	重症急性呼吸器症候群 [SARS]	重症急性呼吸器症候群		
2220	その他の特殊目的用コード			
分類外				
9999	分類外	ICD-10及び疾病分類に該当のない疾病		

白浜町国民健康保険第2期データヘルス計画

発行日：平成30年3月

発行：白浜町

編集：白浜町住民保健課

〒649-2211

和歌山県西牟婁郡白浜町1600番地

TEL (0739) 43-5555 (代表)

